

崇親院跡

—平安京左京六条四坊十六町—

2015年

古代文化調査会

崇親院跡

—平安京左京六条四坊十六町—

2015年

古代文化調査会

例 言

1. 本書は、古代文化調査会が京都市下京区寺町通松原下ル植松町において、大阪ガス都市開発株式会社によるマンション建設に伴い実施した平安京左京六条四坊十六町跡（京都市文化財保護課番号 14H094）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査（記号 15TEGO）は、古代文化調査会の家崎孝治が担当した。
3. 調査にあたっては、京都市文化市民局文化財保護課の指導を受けた。
4. 本書の編集・執筆は家崎がおこなった。
5. 図面整理は三谷彰宏、森将孝、山田学がおこない、遺物実測及び製図トレースは水谷明子が担当した。
6. 本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系VIによる。
7. 本書で使用した地図は、京都市都市計画局発行の2,500分の1の地図（三条大橋、五条大橋）、国土地理院発行の25,000分の1の地図（京都西南部）を調整し、使用した。
8. 土壌及び土器・瓦類の色調の表記は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
9. 遺構番号は実測図・写真ともに共通している。
10. 発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

赤松佳奈 伊東義通 家原圭太 馬瀬智光 奥井智子 尾崎景亮 梶川敏夫 北田栄造
熊井亮介 熊谷舞子 黒須亜希子 寺澤一彦 鈴木久史 西森正晃 新田和央
狭間 崇 長谷川行孝 平尾政幸 堀 大輔 宮原健吾
(株)アクセス都市設計 (株)明輝建設 (株)大高建設 大阪ガス都市開発(株)
(公財)京都市埋蔵文化財研究所

本文目次

崇親院跡・平安京左京六条四坊十六町跡

I 調査の経過	1
II 遺構	4
III 遺物	8
IV まとめ	20

図版目次

図版1	遺跡	第1・2面遺構実測図
図版2	遺跡	第3・4面遺構実測図
図版3	遺跡	第5・6面遺構実測図
図版4	遺跡	北壁断面実測図
図版5	遺跡	南壁断面実測図
図版6	遺跡	東壁・南東部南壁・南東部東壁断面実測図
図版7	遺跡	井戸401・井戸387・井戸492・井戸416実測図
図版8	遺跡	井戸336・井戸333・井戸288・井戸289実測図
図版9	遺跡	井戸287・井戸1・土壙158実測図
図版10	遺跡	柱列1・柱列2実測図
図版11	遺跡	柱列3・柱列4実測図
図版12	遺跡	柱列5・柱列6・柱列7・柱列8実測図
図版13	遺跡	1 調査地遠景（東から） 2 第1面全景（東から） 3 第2面全景（東から）
図版14	遺跡	1 第3面全景（東から） 2 第4面全景（東から） 3 第5面全景（東から） 4 第6面全景（東から）

- 図版15 遺跡 1 井戸287 (南から)
 2 井戸289 (北から)
- 図版16 遺跡 1 井戸288 (北から)
 2 井戸336 (南東から)
- 図版17 遺跡 1 井戸416 (西から)
 2 井戸401 (北から)
- 図版18 遺跡 1 井戸387 (南から)
 2 井戸492 (東から)
- 図版19 遺物 土壙473・477・柱穴346・井戸387・土壙337・井戸401・288・289・287出土遺物
- 図版20 遺物 炭層339・柱穴313・土壙158・266・417・井戸387・3B整地層3出土遺物
- 図版21 遺物 井戸287出土軒瓦
- 図版22 遺物 井戸287・炭層339・柱穴397・土壙415出土軒瓦
- 図版23 遺物 井戸401・土壙415・4B整地層4・柱穴358出土軒瓦

挿 図 目 次

図1	調査地点位置図	1
図2	調査地位置図	2
図3	平安京条坊と調査地位置図	2
図4	四行八門と調査位置関係図	2
図5	整地層6・土壙473・476・477・溝495・井戸401出土遺物実測図	9
図6	井戸387・492・炭層339・土壙346・337・柱穴313出土遺物実測図	10
図7	井戸416・336・333・288・289・流路469・柱穴364出土遺物実測図	12
図8	流路297・井戸287・土壙285・158・柱穴180・106・82・38出土遺物実測図	13
図9	軒瓦拓影・実測図	15
図10	軒瓦拓影・実測図	17
図11	土製品実測図	18
図12	石製品・ガラス製品実測図	18
図13	銭貨拓影図	19

崇親院跡・平安京左京六条四坊十六町跡

I 調査の経過

調査に至る経緯

調査地は、京都市下京区寺町通松原下ル植松町714他である。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である平安京跡の左京六条四坊十六町跡に当たる。2014年秋、当地にマンション建設の計画がなされ、工事に先立ち京都市文化財保護課が試掘調査を実施した。試掘調査の結果、地表面より1.5m以下において室町時代の整地層、平安時代後期から鎌倉時代の整地層、遺構が良好な状態で残存していることが判明した。京都市は発掘調査の指導をおこない、設計会社及び施主との協議の結果、当調査会が発掘調査をおこなうことになった。調査は2015年2月より開始することとなった。

調査経過

当該地は、平安京左京六条四坊十六町に相当し、西が富小路、東が東京極大路、北が五条大路、南が樋口小路に囲まれたところで、調査対象地は東京極大路に東面する十六町の北東部・西四行



図1 調査地点位置図 (1/25,000)

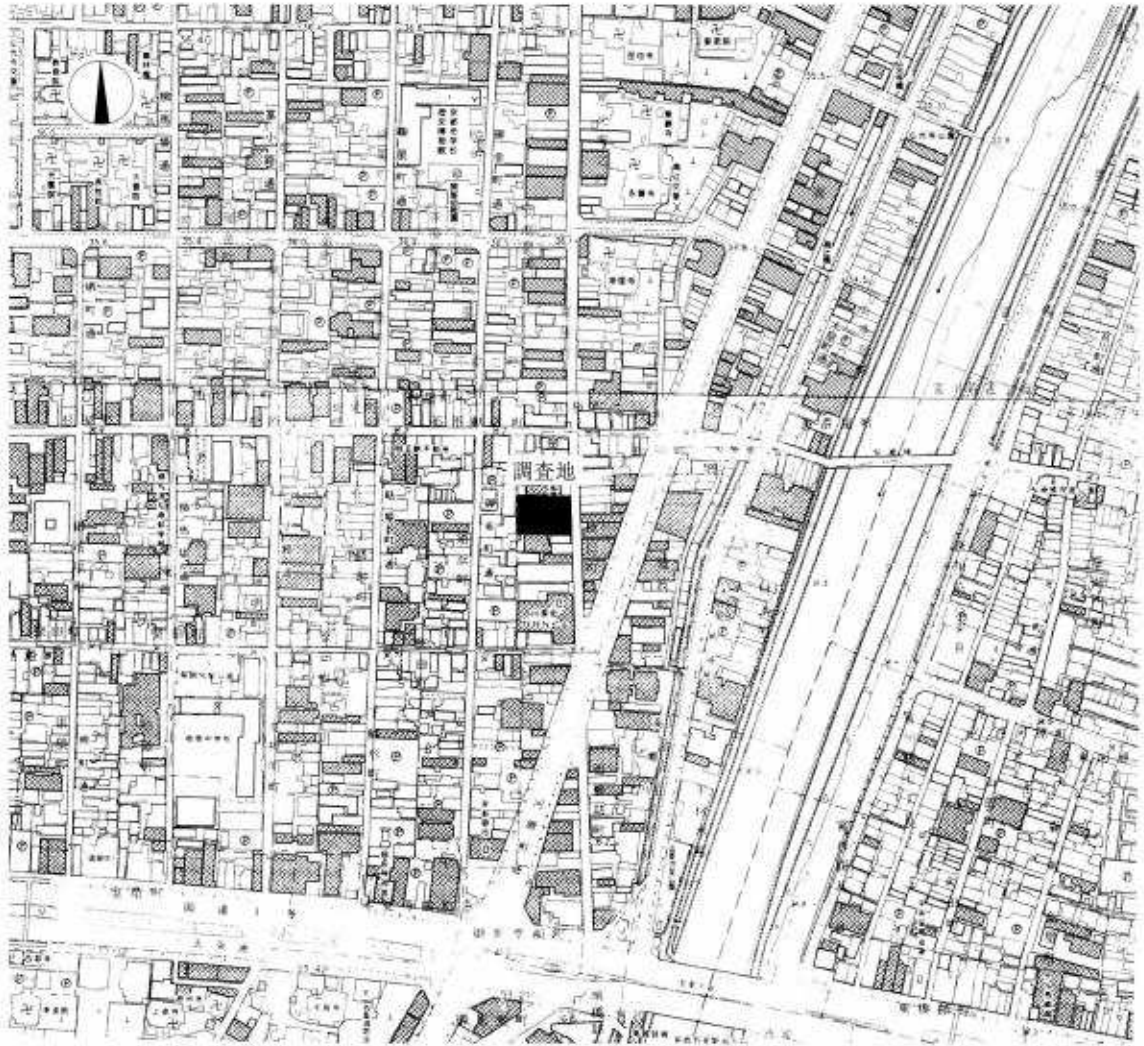


図2 調査地位置図 (1/5,000)



図3 平安京条坊と調査地位置図

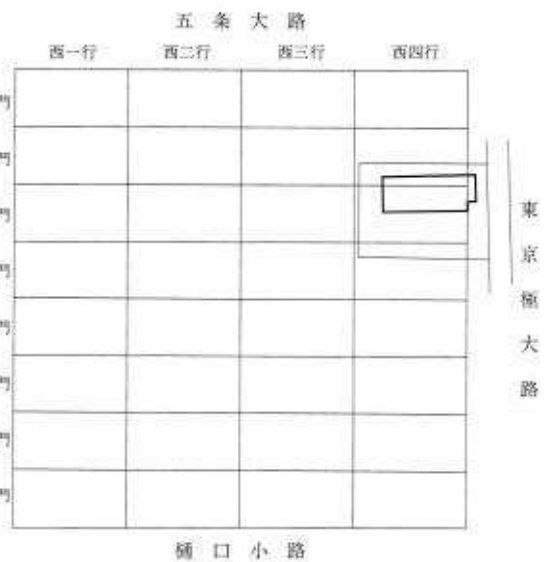


図4 四行八門と調査位置関係図 (1/2,000)

の北二門～三門に相当する。調査区の東辺部には東京極大路の西築地推定ラインが通るところである。文献史料によれば、平安時代前期、右大臣藤原良相の邸宅が置かれ、貞観2年(860)自邸内に居宅のない藤原氏の子女のための施設・崇親院と呼ばれる福祉施設を設けたことが記録として残っている。崇親院は平安時代を通して存在したとされ、平治元年(1159)の火災によって六条院、因幡堂、河原院などと共に焼失し、その後の消息は不明とされている^{註1)}。

調査においては崇親院の変遷に留意すると共に東京極大路の西築地推定ラインが調査区の東部付近を通ることから築地の痕跡及び築地内溝の検出につとめた。

実際の調査においては地表下1.5mまでの江戸時代以降の土層を機械力により除去したのち、調査に着手した。調査面は6面あり、最終面は地表下2.5mであった。現地の地表面は標高35.5m程で、調査の最終面は標高33mであった。調査は2015年1月26日から開始し、2015年3月27日に終了した。実働日数は43日間であった。なお、東京極大路の西側溝が敷地内に想定されるため、調査完了後埋め戻し時にサブトレンチを設定し、西側溝の確認調査をおこなった。

調査の方法としては、(公財)京都市埋蔵文化財研究所が作成した平面直角座標系VIによる平安京の復原モデル60を使用し、調査区の北東角を原点(X=-111,068m、Y=-21,280m)とする、東西方向にアラビア数字を南北方向にアルファベットを記号として付し、4mメッシュのグリッドを基本とする遺構遺物の記録をとる方法をおこなった。十六町における築地四隅の座標値(新測地系)は次のとおりである。

北西	X=-111,044.53m	北東	X=-111,044.05m
	Y=-21,402.54m		Y=-21,283.15m
南西	X=-111,163.92m	南東	X=-111,163.43m
	Y=-21,402.05m		Y=-21,282.66m

Ⅱ 遺 構

調査地は既存建物基礎により南壁及び西壁部分は地表下2mまで攪乱されていた。全体的には地表下1.5mまで江戸時代以降の土層が堆積しており、以下2.5mまで平安時代後期から室町時代後期の土層が堆積する。実際の調査では6面の調査をおこなった。

遺構には平安時代から江戸時代のものがあり、遺構の種類としては、平安時代後期から鎌倉時代の土壇、掘立柱、溝、井戸、流路跡、室町時代の土壇、掘立柱、井戸、流路跡、桃山時代から江戸時代の土壇、井戸跡などがある。遺構総数は495基であった。ここでは各調査面ごとに第1面から順次時代を遡って遺構の説明をおこなう。

第1面の遺構

桃山時代から近代までの遺構を検出した。調査区の西半部は江戸時代の土層が0.2m程深く堆積しており、一段低くなる。

井戸1・2・15（図版1・9・13の2）

いずれも石組井戸で、下段の組石のみ残る。井戸1は江戸時代中期、井戸2・15は江戸後期。

集石10・11（図版1・13の2）

調査区中央部に位置する。集石10は長径1.35m、短径0.8mの楕円形を呈し、深さ0.3mを測る。0.1～0.15m大の円礫を一段敷き詰める。江戸後期。集石11は径0.8～0.9mの円形の掘形をもち、深さ0.35mを測る。0.1m大の円礫を二段程上層部に詰める。江戸前期。

砂礫層13（図1・13の2）

調査区南東部に位置する。東西長3.5m、南北長4.5m、深さ1mの方形状の落ち込みである。砂礫と砂層が交互に堆積しており、洪水堆積層とみられる。江戸時代前期。

第2面の遺構

東半部を整地層2（黒褐色砂泥層）として0.2m程掘り下げた面で多数の掘立柱跡を検出した。柱穴の多くは掘形の底に根石を据える。

柱列1・2（図版1・10・13の3）

いずれも東西方向の柱列である。調査区全域にわたって検出した。いずれも径0.3～0.5mの円形の掘形をもち、深さ0.2～0.3mを測る。大半の柱穴は底部に根石を据える。柱列1・2ともに柱間は1mを基本とする。柱列は西四行の北二門と北三门の境界推定ライン上近くにあり、いずれも宅地の区画あるいは境界を示す塀跡と考えられる。室町時代後期。

土壇85（図版1・13の3）

調査区中央部に位置する。東西長2.3m、南北長1.8m以上の楕円形の掘形をもつ。深さは0.25mと浅い。室町時代後期の土器類を少量含む。

第3面の遺構

全体に0.1m程の黒褐色泥砂層（整地層3）が薄く堆積しており、掘り下げて第3面とした。東半部で集中して掘立柱群を検出した。

柱列3・4・5（図版2・11・12・14の1）

東京極大路沿いに多数の柱穴を検出したが、調査区が狭小により、建物として復原するには困難であった。柱列3・4は東西方向の堀跡としたが、柱列5は各柱穴の規模が径0.7m、深さ0.5～0.6mと他のものより大きく、根石も一回り大きい。柱間は2.4mの等間で建物の柱跡と考えられる。大半の柱穴の底には根石を据える。室町時代後期。

土壙158（図版2・9・14の1）

調査区中央北壁沿いに位置する。土器溜りである。長径1.8m、短径1m、深さ0.3mの規模をもつ。室町時代後期の土師器皿が多く出土した。

第4面の遺構

厚さ0.2m程の整地層4（黒褐色砂泥層）を掘り下げて第4面とした。調査区の東半部は炭化物層が現出し、第4面の遺構はその炭化物層の上面で成立する。

流路297（図版2・14の2）

調査区東部の南壁沿いに位置する。東西長7m、南北長3m以上、深さ0.7mの規模をもつ。堆積土は柔らかな砂層で、洪水による堆積層と考えられる。室町時代後期。

土壙285（図版2・14の2）

調査区西部に位置する。径1.7m、深さ0.3mを測る。室町時代後期。

井戸287（図版2・9・14の2・15の1）

調査区中央部に位置する。石組井戸である。当初土壙として処理し、第5面を掘り下げた段階で井戸と判明した。径2mの円形の掘形をもち、深さ1.65mを測る。井筒は0.2～0.3mの川原石で内径0.7m程に組む。石組は4段残存する。井戸底に一辺0.7m、高さ0.18mの方形の木枠を据える。掘形より平安時代後期の瓦類が多量に出土した。この井戸287は平安時代後期の井戸492とほぼ重複して成立しており、掘形出土の瓦類は、もともと井戸492を廃棄した時の井戸埋土に含まれていた可能性がある。井戸底の標高31.85mを測る。室町時代後期。

井戸288（図版2・8・14の2・16の1）

調査区西部の北壁沿いに位置する。径1.5mの円形の掘形をもち、深さ1.3mを測る。石組は抜かれており、井戸底に一辺0.6m、残存高0.1mの方形の木枠のみが残る。井戸底の標高31.9mを測る。室町時代中期。

井戸289（図版2・8・14の2・15の2）

調査区南西部に位置する。径1.6m程の掘形をもち、深さ1.55mを測る。石組は一部のみ残存する。井戸底に長さ1m、幅0.3mの二枚の板と長さ0.7m前後の板二枚を組み合わせ、方形に木

枠を据える。井戸底の標高31.7mを測る。

井戸333 (図版2・8・14の2)

井戸288の東側に位置する。江戸時代の井戸1と井戸319に一部攪乱を受けている。石組井戸である。最下段の石のみ残存する。井戸底に一辺0.7m、高さ0.24mの方形の木枠を据える。井戸底の標高31.8mを測る。鎌倉時代後期。

井戸336 (図版2・8・14の2・16の2)

調査区北西隅に位置する。江戸時代の井戸15に一部削平を受けている。石組井戸である。石組は大半が抜かれている。井戸底に一辺0.6m、高さ0.3mの方形の木枠を据える。井戸底の標高31.75mを測る。室町時代前期。

炭層339 (図版2・14の2)

調査区の東半部に東西長12m、南北幅2～3mの範囲に厚さ0.02～0.1mの炭化物が堆積した層を検出した。この炭層の東端部近くに黄色粘土で堅く整地した層が厚さ0.02m、径1.2m程の広がりて認められ、その表面は火を受けて赤変している。炭層339は火災に伴う建物などの炭化物の堆積層と考えられる。炭層からは多くの土器類が出土した。平安時代後期。

第5面の遺構

西半部を0.1～0.2mを掘り下げ(整地層5)、東半部は炭層339を除去した面を第5面とした。第5面は非常に堅く均一な整地層(整地層6)の上面で成立しており、調査区全域で認められ、西端で0.1m、東端で0.3mの厚さがあり、東京極大路に向かって厚く地業している。この整地層は11世紀代の土器を含む。

井戸416 (図版3・7・14の3・17の1)

調査区西部に位置する。江戸時代の井戸15に西半部が削平を受ける。一辺0.85mの方形縦板組井戸である。木枠は底から0.3m程のみ残存する。横棧や隅木の痕跡は認められなかった。井戸の上層は洪水層とみられる砂層が厚く堆積する。井戸底の標高は31.7mを測る。鎌倉時代前期。

井戸387 (図版3・7・14の3・18の1)

調査区中央部やや東寄りに位置する。石組井戸である。石組の底二段は0.2～0.3mの川原石を据え、上部は0.1m前後の比較的小さな石を5・6段積む。内径は底が0.6m、上部は0.7mとややひらくように作る。底には木枠などの施設を認めることができなかった。掘形には多量の小石を充填し、裏込めとする。井戸内より瓦質の磚が出土している。底の標高は32.35mを測り、時期を前後する他の井戸底より1m程高く、生活用水としての井戸ではなく、あるいは雨乞いなどの神事をおこなうために作られた井戸である可能性がある。平安時代に遡る石組井戸は類例が少なく、このような上部にひらく構造をもつ石組井戸は、平安時代後期の井戸の特徴とされている。

井戸401 (図版3・7・14の3・17の2)

調査区中央部北壁沿いに位置する。方形縦板組井戸である。縦板は底部のみ高さ0.25m残存する。縦板井戸の内径、一辺0.6mを測る。底部において横棧の痕跡の一部を認めた。井戸底の標

高は31.8mを測る。平安時代後期。

溝495（図版3）

調査終了時に東京極大路西側溝の有無を確認するために調査区の東端にサブトレンチを開けた。その結果、南北方向の溝状遺構を認めた。溝495は第5面上で成立する。溝幅1m以上、東肩は調査区外となり、深さ0.2mを測る。堆積層は泥土混りのオリーブ褐色砂泥層である。東京極大路西側溝とみられる。平安時代後期。

柱穴494（図版3）

拡張区で溝495とともに検出した。溝495の西1mのところの位置する。径0.4~0.5m、深さ0.2mの根石をもつ掘立柱跡である。東京極大路西築地推定ラインより東へ1mのところにある。築地塀に伴う柱穴跡と考えられる。平安時代後期。

第6面の遺構

整地層6（オリーブ褐色砂泥層）は厚さが0.1~0.3mあり、東半部に厚く、2層程に分層できる。

流路469（図版3・14の4）

調査区の西半部、整地層6を削り取る東西方向の流路跡である。堆積土は非常に柔らかい砂層で、洪水に伴う堆積層と考えられる。鎌倉時代後期。

井戸492（図版3・7・14の4・18の2）

調査区中央部南壁沿いに位置する。井戸287に上部が削平を受ける。方形縦板組井戸である。方形の一辺0.8m、縦板の幅は不明、残存高0.15mを測る。井戸底に径0.42m、高さ0.22mの曲物を据える。井戸底の標高は31.59mを測る。平安時代後期。

土壙477（図版3・14の4）

調査区中央部に位置する。径0.5~0.6m、深さ0.25mの小さな土壙である。完存品の土師器皿を含み、祭祀遺構の可能性ある。平安時代後期。

土壙476（図版3・14の4）

調査区東端部南壁沿いに位置する。径1.1m以上、深さ0.4mを測る。東京極大路西築地推定ライン上に位置する。平安時代後期。

土壙473（図版3・14の4）

調査区東端部北壁沿いに位置する。径0.7m以上、深さ0.35mを測る。完形品の土師器皿を含む。土壙476と同じく東京極大路西築地推定ライン上に位置する。ともに西築地に関連する遺構と考えられる。平安時代後期。

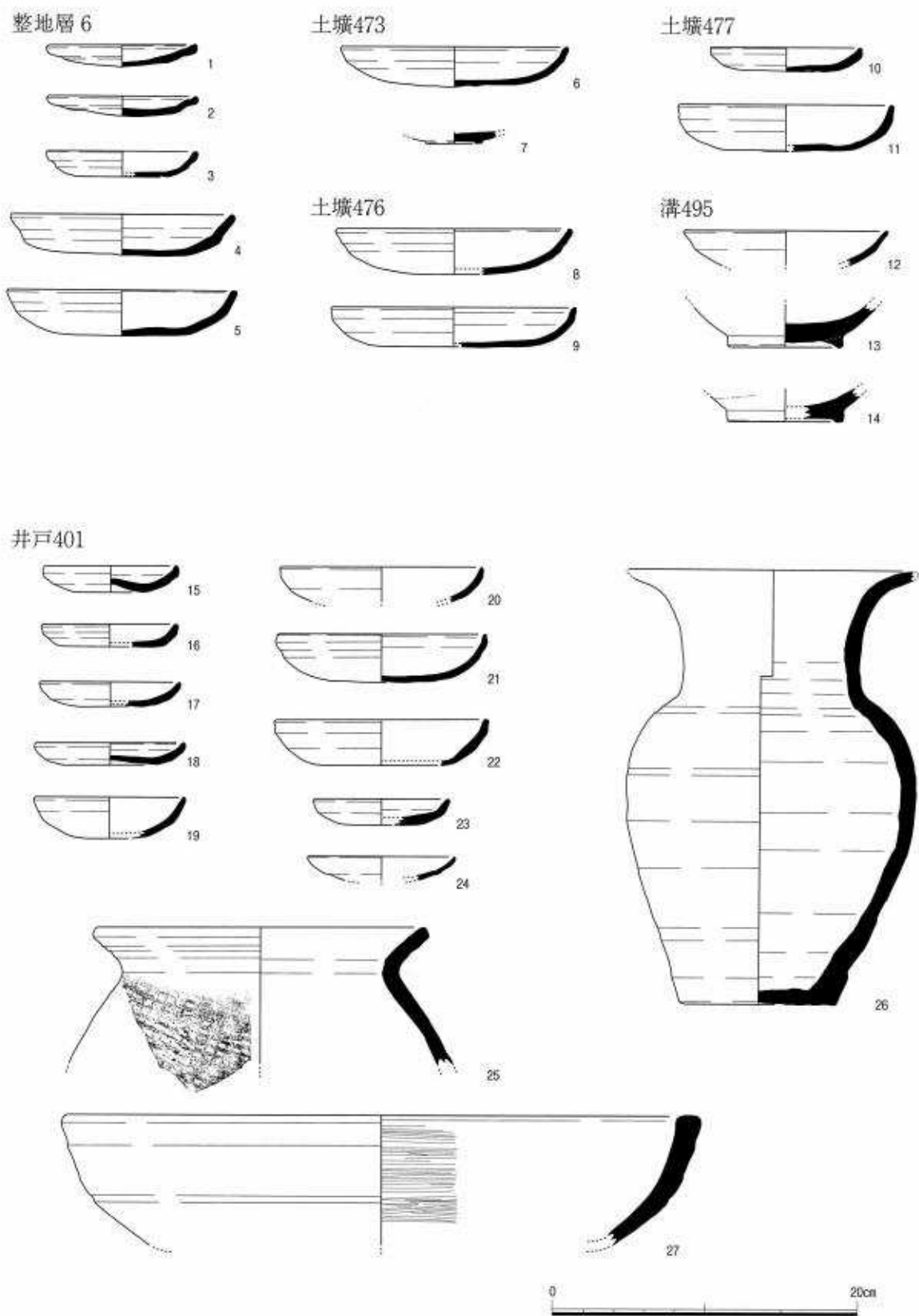
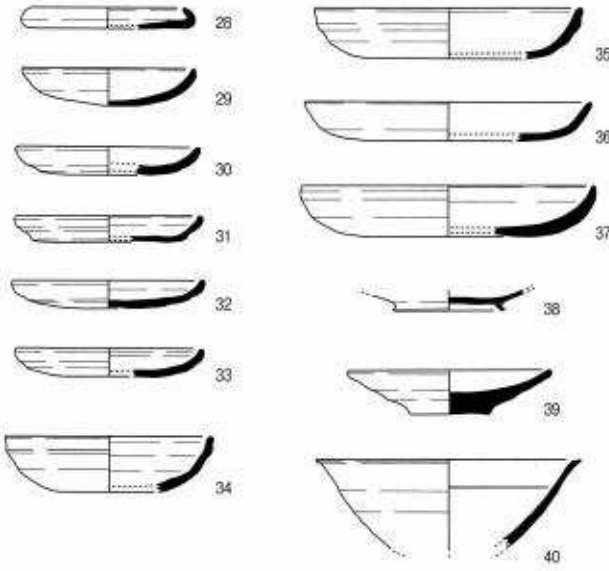
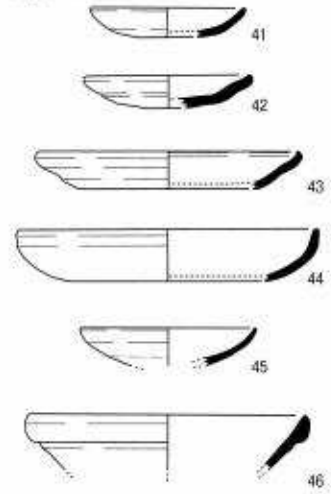


图5 整地層 6 · 土壙473 · 476 · 477 · 溝495 · 井戸401出土遺物実測圖 (1/4)

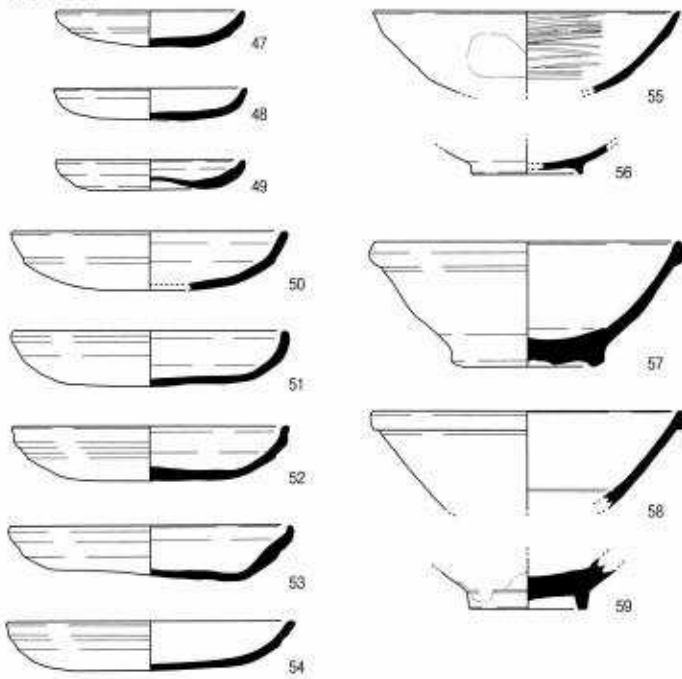
井戸387



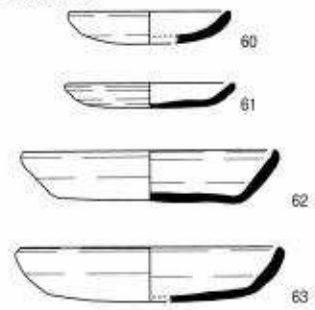
井戸492



炭層339



土壙346



土壙337



柱穴313



図6 井戸387・492・炭層339・土壙346・337・柱穴313出土遺物実測図(1/4)

井戸492出土土器 (図6)

土師器皿N (41~44)、白磁皿 (45)、白磁碗 (46) がある。46は曲物内より出土。45は黄みがかった釉薬を施す。12世紀後半から13世紀前半。

炭層339出土土器 (図6・図版20)

土師器皿N (47~54)、瓦器碗 (55、56)、白磁碗 (57~59) がある。57は外面体部下半以下は無釉である。59の内面底部は1cm幅で釉を掻き取る。12世紀中頃のV期中のものである。

土壙346出土土器 (図6・図版19)

土師器皿N (60~63) がある。13世紀前後のものである。

土壙337出土土器 (図6・図版19)

須恵器片口皿 (64)、瓦器皿 (65) がある。64の底部は回転糸切り痕残る。内面に朱が付着する。65は完存品、内面底部は直線方向の粗いミガキを施す。井戸416の上面から出土したものである。

柱穴313出土土器 (図6・図版20)

須恵器皿 (66) は口径7.8cmの小皿である。底部はヘラ切りの痕跡が認められる。

井戸416出土土器 (図7)

土師器皿N (67~73)、青磁碗 (74)、白磁蓋 (75)、瓦器碗 (76) がある。73、74は掘形出土。68は木枠内出土。75は合子の蓋である。74は内面に劃花文を施す。13世紀前半のVI期中。

流路469出土土器 (図7)

土師器皿N (77~81)、瓦器碗 (82) がある。14世紀頃のVII期中。

井戸336出土土器 (図7)

土師器皿N (83)、須恵器碗 (84)、瓦器羽釜 (85) がある。84は山茶碗、高台裏に稲藁痕がある。85はミニチュアの羽釜である。VII期新。

井戸333出土土器 (図7)

白色土器 (86)、瓦器火舎 (87) がある。13世紀後半。

柱穴364出土土器 (図7)

土師器皿N (88) はV期のものである。

室町時代

井戸288出土土器 (図7・図版19)

土師器皿N (89~93)、皿Sh (94、95)、土師器皿S (96~98)、須恵器鉢 (99) がある。15世紀頃のものである。

井戸289出土土器 (図7・図版19)

土師器皿Sh (100)、皿S (101、102)、土師器皿N (103)、須恵器皿 (104)、瓦器鍋 (105) がある。100は木枠内、102は掘形出土である。104はミニチュアの小皿である。口縁部内面に灰釉が付着。15世紀前半のVIII期新。

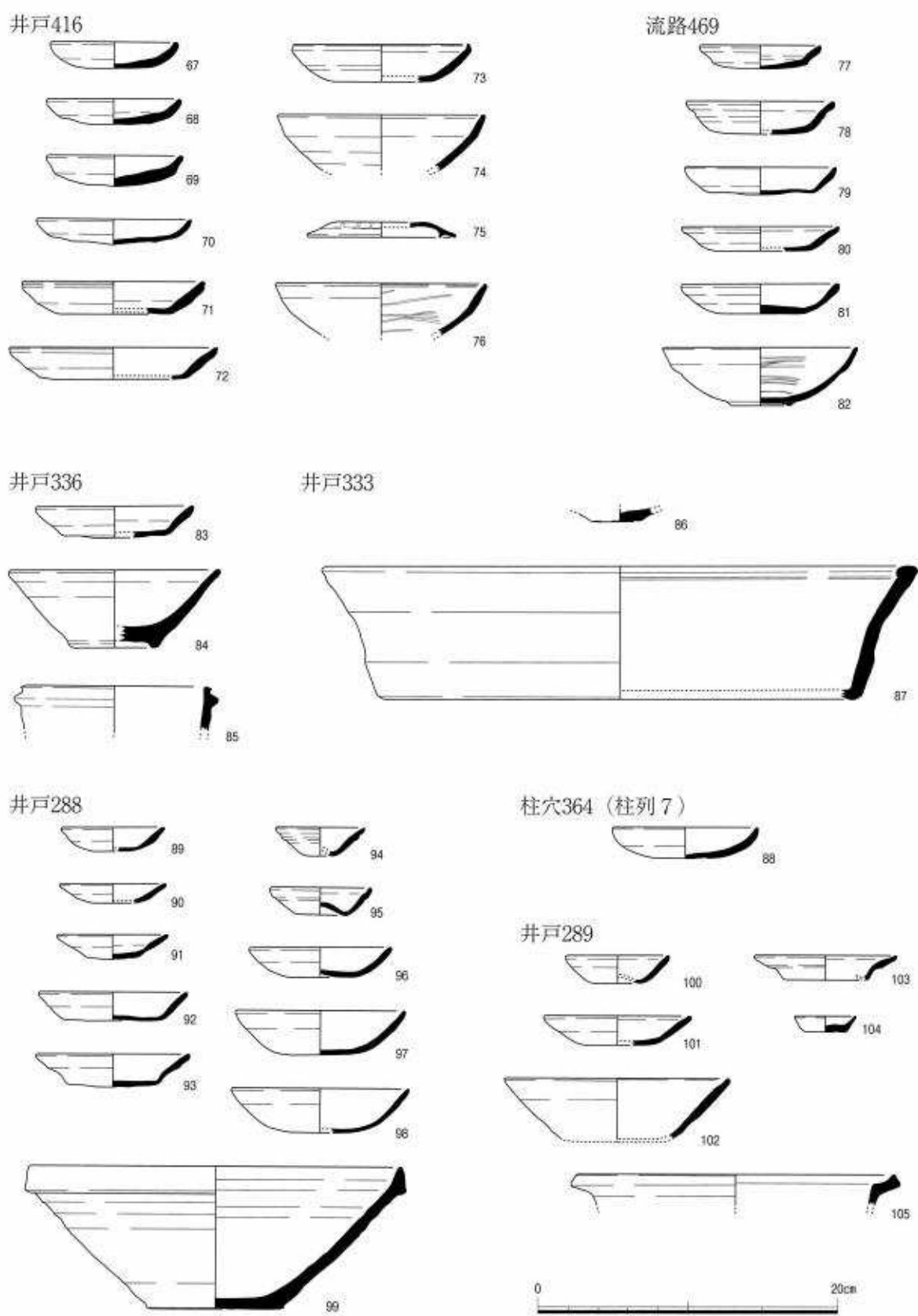
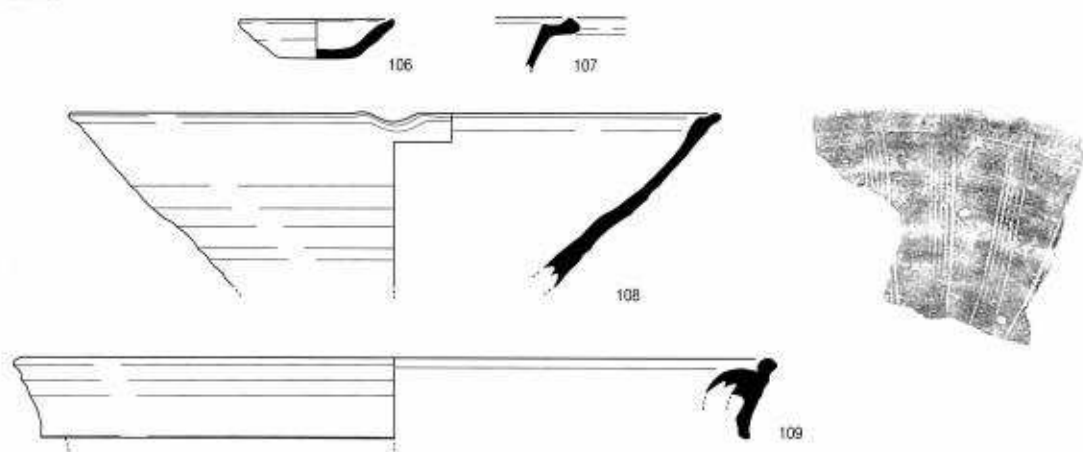
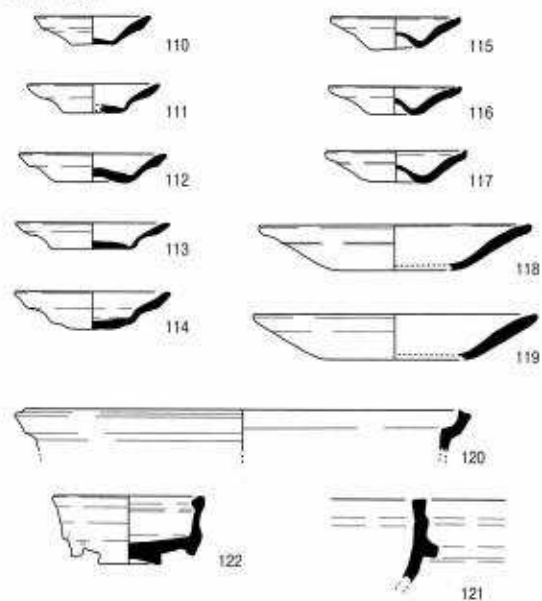


图7 井戸416・336・333・288・289・流路469・柱穴364出土遺物実測図 (1/4)

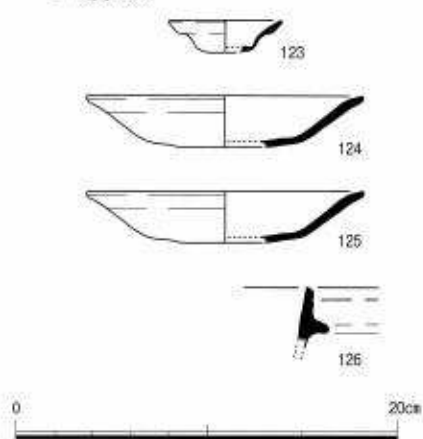
流路297



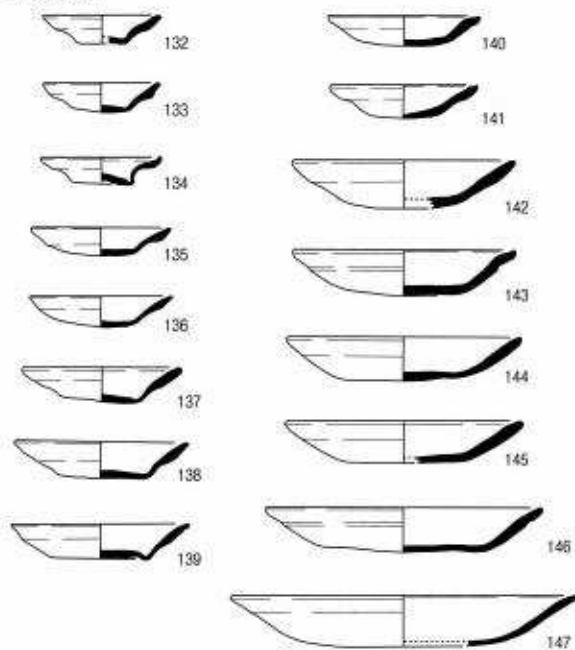
井戸287



土壙285



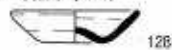
土壙158



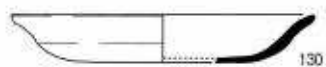
柱穴180 (柱列 5)



柱穴106 (柱列 4)



柱穴82 (柱列 2)



柱穴38 (柱列 1)

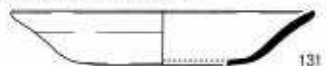


图8 流路297·井戸287·土壙285·158·柱穴180·106·82·38出土遺物実測図 (1/4)

流路297出土土器 (図8)

土師器皿S (106)、瓦器鍋 (107)、焼締陶器 (108、109) がある。107は信楽の播鉢。109は常滑の甕である。IX期～X期のものである。

井戸287出土土器 (図8・図版19)

土師器皿N (110～114)、皿Sh (115～117)、皿S (118、119)、瓦器鍋 (120)、瓦器羽釜 (121)、青磁香炉 (122) がある。122は高台、内面底部及び体部の一部は無釉である。釉は明緑灰色を呈する。16世紀前半のX期古。

土壙285出土土器 (図8)

土師器皿N (123)、皿S (124、125)、瓦器羽釜 (126) がある。X期古。

柱穴180出土土器 (柱列5) (図8)

土師器皿S (127) は15世紀前半の頃のものである。

柱穴106出土土器 (柱列4) (図8)

土師器皿Sh (128) は15世紀代のものである。

柱穴82出土土器 (柱列2) (図8)

土師器皿N (129)、皿S (130) は16世紀前半のX期古。

柱穴38出土土器 (柱列1) (図8)

土師器皿S (131) は15世紀後半のものである。

土壙158出土土器 (図8・図版20)

土師器皿N (132～139)、皿S b (140、141)、皿S (142～147) がある。16世紀前半のX期古に属する。

瓦 類

平安時代から江戸時代の軒丸瓦6点、軒平瓦20点の計26点が出土している。その内10点が井戸287の掘形より出土した。

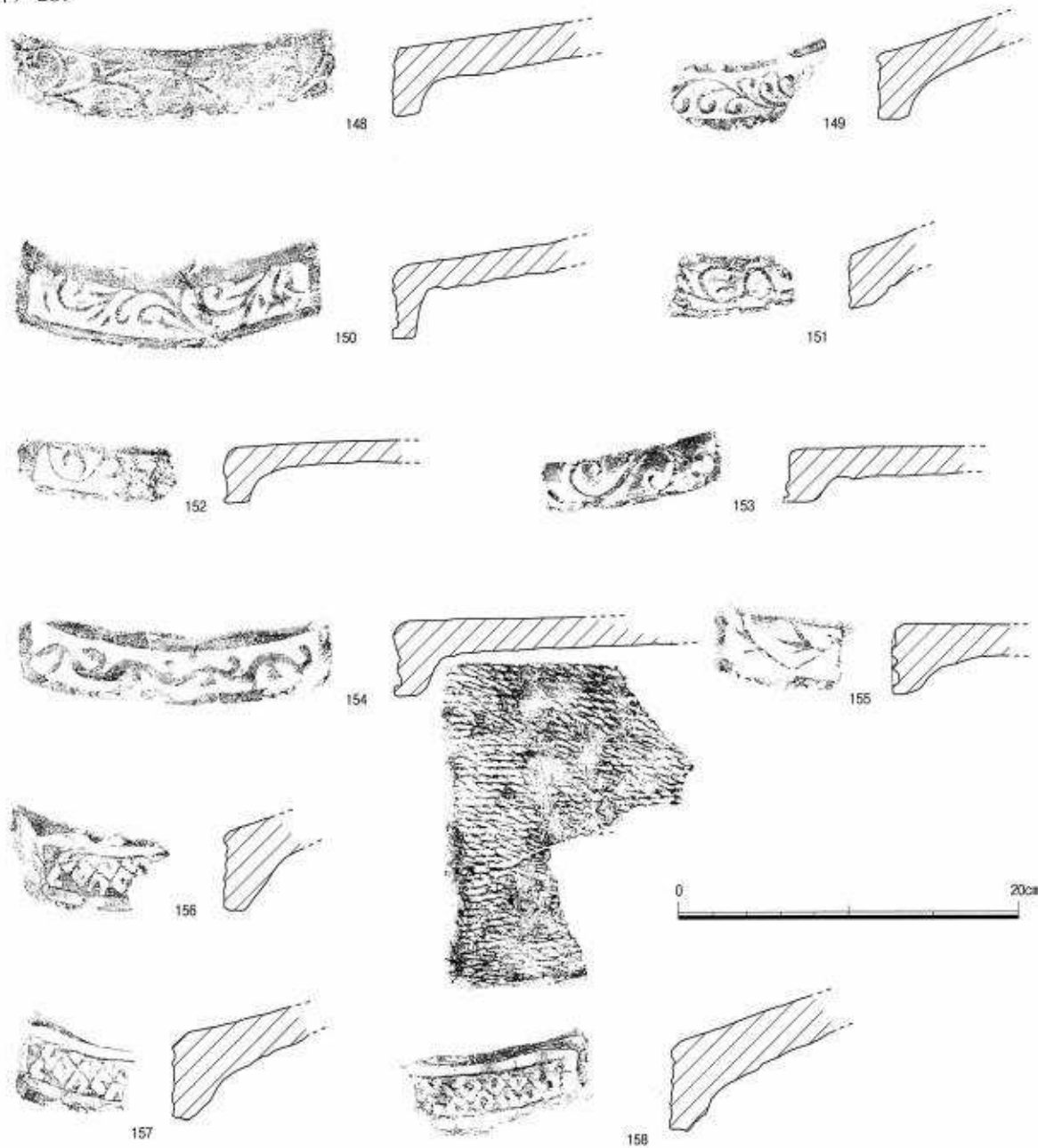
井戸287出土軒瓦 (図9・図版21・22)

井戸の掘形より多量の瓦類が出土した。そのうち軒瓦は軒平のみで、10点ある。大半が火災によると考えられる二次焼成を受けて黄橙色に変色する。

偏行唐草文軒平瓦 (148～155)

いずれも折曲げ、半折曲げ技法で作られ、大半のものが瓦当上端はヨコケズリ、側面はタテケズリ、顎部はヨコケズリをおこなう。148の範は浅い。顎部裏面は指押さえのちヨコナデ、平瓦凸面は指押さえ痕顕著に残る。胎土は白色砂粒を多く含みやや粗い、黄灰色を呈する。149の顎部裏面はヨコナデ、平瓦部凸面はタテ方向にナデ調整を施す。胎土は砂粒を含み精良、淡黄灰色を呈する。『木村捷三郎収集瓦図録』の栗栖野瓦窯跡91と同範。150の瓦当上端まで布目痕が認められる。顎部裏面は折曲げ皺が残る。平瓦部凸面は縄目タタキ痕が顕著に残る。胎土は白色砂粒を

井戸287



炭層339

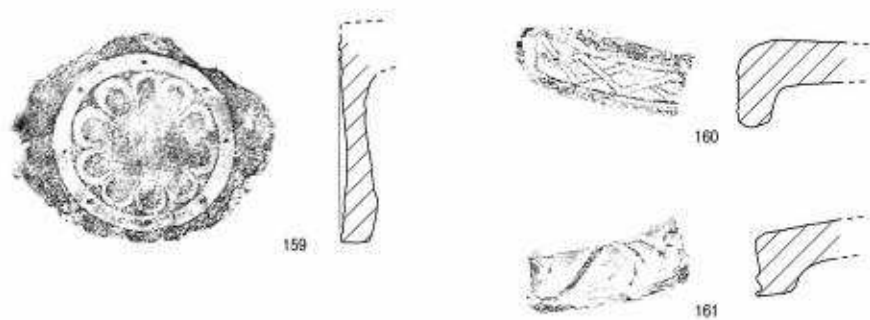


图9 軒瓦拓影・実測図 (1/4)

含み精良、淡黄灰色を呈する。151の顎部裏面は粘土を補強する。胎土は砂粒を含み精良、淡黄灰色を呈する。152の顎部裏面はヨコナデ、平瓦部凸面はタテ方向のナデを施し、凹面は糸切り痕が残る。胎土は白色砂粒を含み精良、黄灰色を呈する。153の顎部裏面は指押さえのちヨコナデ、平瓦部凸面はナデ調整を施す。胎土は白色砂粒を多く含みやや粗い、黄灰色を呈する。154の平瓦部凸面は縄目タタキ痕顕著に残る。ヘラ記号が認められる。胎土は白色砂粒を多く含み精良、黄灰色を呈する。155は直線的な唐草文様である。顎部裏面はヨコナデ、平瓦部凸面は縄目タタキ痕がわずかに残る。胎土は白色砂粒を多く含み精良、暗橙灰色を呈する。

幾何学文軒平瓦（156～158）

斜格子文の各格子の中に珠文を1個ずつ配する。外区にも珠文を巡らす。顎部裏面は指オサエのちヨコナデ、平瓦部凸面は指オサエ痕残る。胎土は砂粒を含み精良、橙灰色を呈する。半折曲げ技法である。『平安京古瓦図録』の554と同范。

炭層339出土軒瓦（図9・図版22）

単弁十葉軒丸瓦（159）

范が浅く中房部は不明。外区に珠文を8個配する。瓦当は楕円形を呈し、瓦当外周及び瓦当裏面周縁部はヘラケズリ成形。瓦当裏面は指ナデ調整をおこない、一部布目痕が残る。胎土は微砂粒を含み精良、灰黄色を呈する。瓦当面の一部に煤が付着する。

斜格子文軒平瓦（160）

複線の斜格子文を配する。瓦当部上端ヨコケズリ、側面タテケズリ、顎部ヨコケズリを施す。顎部裏面ヨコナデ、平瓦部凸面タテ方向のナデ。胎土は白色砂粒を含み精良、黄灰色を呈する。折曲げ技法である。

偏向唐草文軒平瓦（161）

瓦当部上端ヨコケズリ、側面タテケズリ、顎部ヨコケズリ、顎部裏面ヨコナデをおこなう。胎土は白色砂粒を多く含み精良、黄灰色を呈する。折曲げ技法である。

その他の遺構出土軒瓦（図10・図版22・23）

単弁八葉軒丸瓦（162）

柱穴397出土。瓦当部と丸瓦を接合する粘土の付け足しが顕著に認められる。胎土は白色砂粒を多く含み精良、淡黄灰色を呈する。

複弁八葉軒丸瓦（163）

土壙415出土。胎土は白色砂粒を含み精良、淡灰色を呈する。

偏向唐草文軒平瓦（164～167）

164は井戸401と土壙415出土のものが接合。瓦当部上端は幅広くヨコケズリ、側面はタテケズリ、顎部はヨコケズリ、平瓦部凸面はタテケズリをおこなう。凹面は細かい布目痕。胎土は白色砂粒を多く含み精良、橙灰色を呈する。折曲げ技法である。165は4B整地層4出土。井戸287掘

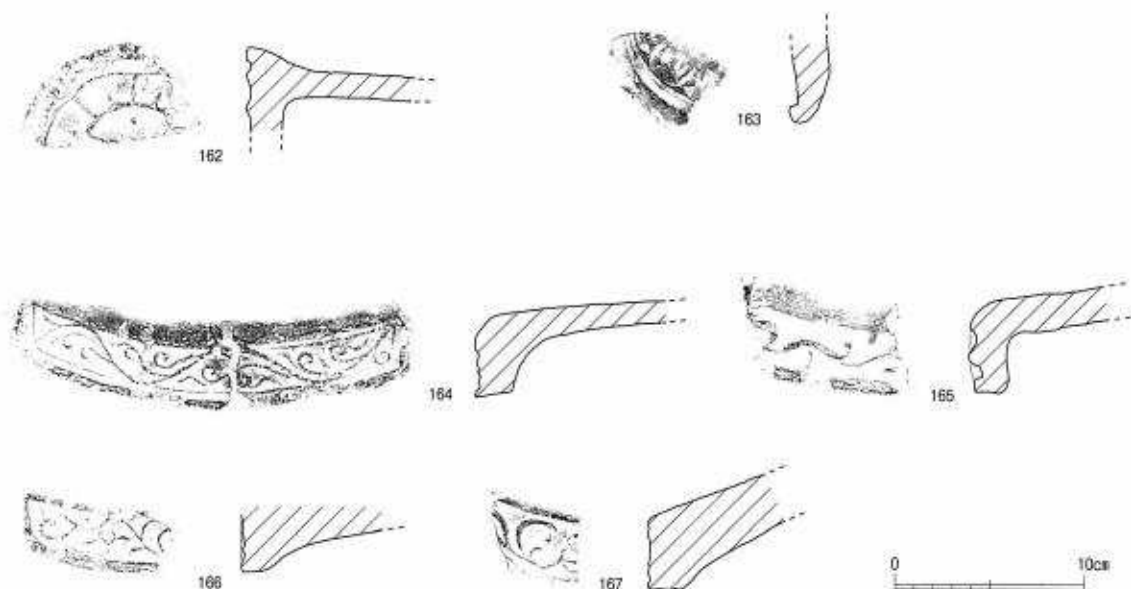


図10 軒瓦拓影・実測図(1/4)

形出土の154と同范。瓦当面まで布目痕認められる。顎部裏面は縄目タタキ痕のままである。平瓦部凸面は縄目タタキ、凹面は細かい布目痕。胎土は白色砂粒を多く含み精良、淡黄灰色を呈する。166は4B整地層4出土。瓦当部側面はタテケズリ、顎部はヨコケズリ、顎部裏面はナデ調整。平瓦凹面は剥離する。胎土は微砂粒を含み精良、淡黄灰色を呈する。半折曲げ技法。「木村図録」の栗栖野瓦窯跡89と同范。167は柱穴358出土。顎部はヨコケズリ、裏面はヨコナデ、胎土は砂粒を多く含み精良、淡灰色を呈する。半折曲げ技法。

土製品 (図11・図版20)

土錘、埴がある。

埴168 (168)

井戸387より出土。瓦質の埴である。径3.5cm程の孔を2カ所に穿つ。孔の心々0.13mを測る。胎土は1cm大の小石及び白色砂粒を多く含む。

土錘 (169、170)

169は3B整地層3出土。ほぼ完存品。長さ6cm、最大幅2.4cmを測る。径0.7cmの孔を穿つ。両端面は平滑に仕上げる。170は井戸387出土。一端が欠損する。残存長4.3cm、幅1.5cmを測る。径0.4cmの孔を穿つ。

石製品 (図12・図版20)

砥石、硯、滑石製羽釜などがある。

用途不明品 (171)

土壙266出土。黒色の粘板岩。孔を穿つ痕跡をとどめる。

硯 (172)

土壙23出土。側面及び裏面に線刻がある。側面には仮名文字とみられる「□□□□」、裏面には「天下—□□□□」とある。

ガラス製品 (図12・図版20)

ガラス製の小玉がある。

小玉 (173)

土壙417出土。ガラス玉である。径1.1cm、高さ0.7~0.8cm、孔の径0.5cmを測る。

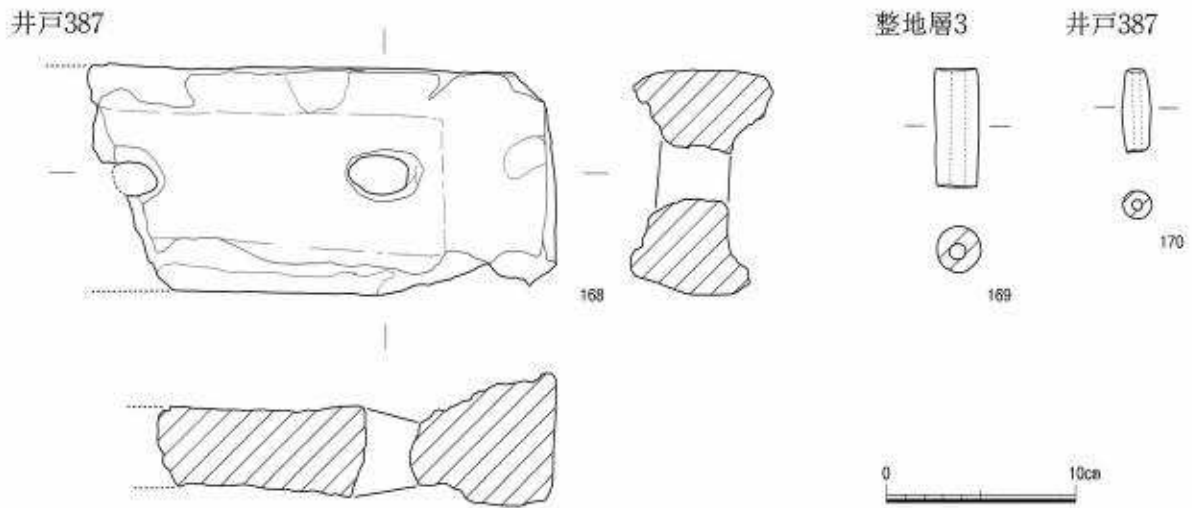


図11 土製品実測図 (1/4)

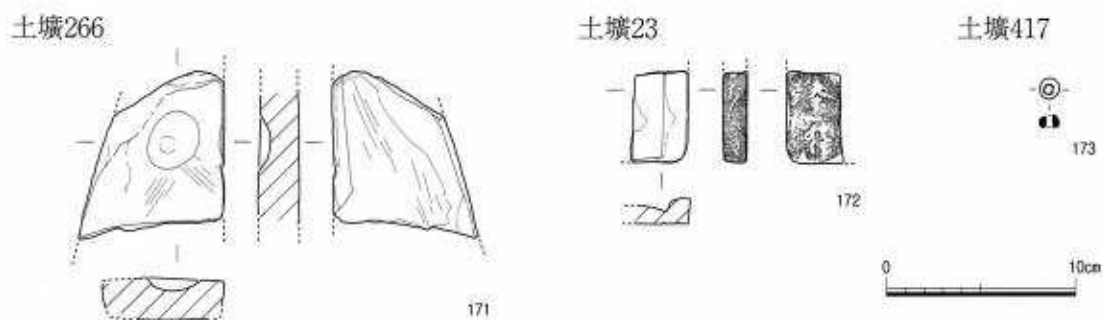


図12 石製品・ガラス製品実測図 (1/4)

金属製品 (図13)

煙管、釘、銅製品、銭貨などがある。

銭貨 (174~176)

寛永通寶5点、開元通寶、天聖元寶、皇宋通寶、元豊通寶、永楽通寶各1点、不明3点の計13点の銭貨が出土している。ここでは遺存状態の良好な3点を示す。

天聖元寶 (174) は炭層339より出土。篆書である。初鑄年代は1023年 (北宋)。皇宋通寶 (175) は土壙158出土。真書である。初鑄年代は1038年 (北宋)。永楽通寶 (176) は柱穴243出土。初鑄年代は1408年 (明)。

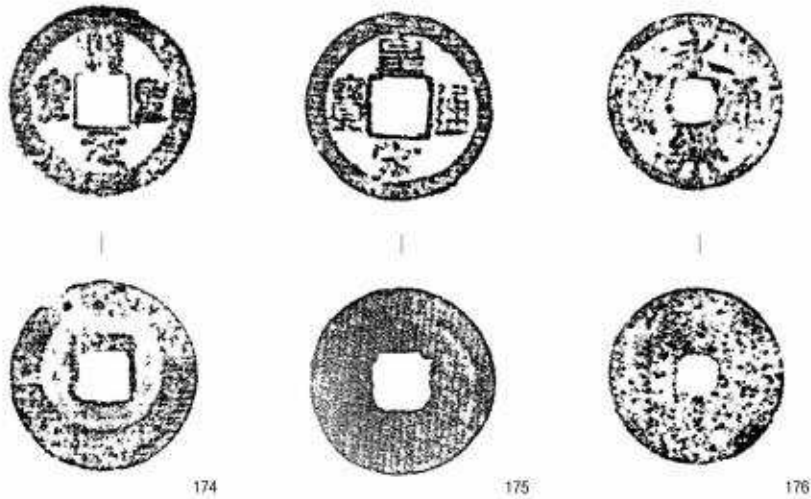


図13 銭貨拓影図 (1/1)

IV まとめ

今回の調査では平安時代後期から室町時代後期にわたる掘立柱跡を多数検出した。実際の調査では、調査区が南北幅6mと狭く、各柱穴群を建物として復原する上で制約があった。そのなかで、第2面で検出した柱穴群（柱列1・2）は調査区の全域東西20m以上にわたって一列に並び、十六町における西四行の北二門と北三門の境界推定ライン上付近にあり、四行八門制における宅地区画を示す堀跡と考えることができる。柱列1・2は15世紀後半以降の土師器皿を含み、室町時代後期の堀跡とみられる。当地は平安時代前期においては右大臣藤原良相の邸宅（六条宅）が置かれたところで、おそらく一町の広さを占有していたと考えられ、当時、居宅のない藤原氏の子女のために自邸内に福祉施設・崇親院を設けた（貞観二年（860））ことが記録として残っている。この崇親院は施薬院の管轄に置かれたが、平安時代後期の平治元年（1159）の火災で六条院、因幡堂、河原院、祇園御旅所などと共に消失し、それ以後の消息は不明とされており、平治元年から室町時代後期まで、3世紀を隔ててなお四行八門制における宅地区画が踏襲されている事実は、平安京における土地利用の変遷・町屋の形成過程を考える上で多くの問題を示唆していると言える。

今回検出した平安時代後期から室町時代後期までの井戸は合わせて9基ある。そのうち井戸401、387、492は平安時代の12世紀前半から中頃のもので、平治元年の火災までのものと考えられる。つまり文献上崇親院が存在していた頃のものである。これらの井戸はいずれも東京極大路から7～11m宅地内に入ったところに位置し、当時の十六町における宅地利用のあり方を示している。とくに井戸492を切り込んで成立する室町時代後期の井戸287の掘形より多量の平安時代後期の瓦類が出土したが、この瓦類はもとは井戸492の埋土に包含されていたものと考えられ、またこれらの瓦類が火災などの二次焼成により赤変していることが認められることから、平治元年の火災のものと考えられることができる。これらの瓦類の軒平瓦は、折曲げあるいは半折曲げ技法により作られており、瓦当文様もいずれも偏行唐草文といった特徴をもっている。栗栖野瓦窯などの中央官衛系生産の瓦である。また、第4面を形成する炭層339出土土器は平安京編年のV期中に比定でき、12世紀中頃のもので、炭層339は平治元年の火災層と想定することは可能である。

なお、井戸387は12世紀前半から中頃の石組井戸で、平安京跡においてはこの時期まで遡る石組井戸の検出例は非常に少ない。平安時代後期の石組井戸としては1982年におこなわれた尊勝寺跡の調査で出土例があり、また、2015年の下鴨城跡（河合城跡）の調査でも出土しており、共に平安時代後期の石組井戸の特徴である上方にひらく構造をもっている。下鴨城跡で検出した石組井戸は湧水層が浅く、日常生活の取水を目的とする井戸とは考えにくく、今回の井戸387も同様に湧水層が浅く、生活用水としての機能は十分でないと考えられる。これらの井戸はあるいは「雨乞い」などの神事をおこなうために作られた井戸である可能性も考慮する必要がある。

江戸時代の井戸15と切り合い関係を持つ井戸416、336、289は13世紀から15世紀の頃のもので

ある。また江戸時代の井戸1と井戸319と切り合い関係を持つ井戸333は13世紀後半の頃のものである。井戸288は15世紀代、井戸287は16世紀頃のものである。13世紀以降の井戸群は平安時代のものに比べ、東京極大路より奥の宅地内の同じようなところに位置する。平治元年の火災以降、鎌倉から室町時代にかけての間、土地の細分化・町屋の形成がなされていく中で、あまり変化のない宅地割りであったことを示している。

以上、今回の調査においては、藤原良相の時代、平安前期から中期にかけての遺構を明確に検出することができなかった。これは第5面成立面の11世紀代の整地層が0.1~0.3mの厚さできわめて堅固に作られていたことなどから、その下層はすべて鴨川の氾濫により平安時代前期の遺構は流出したものと判断した。この第5面の堅固な整地層は鎌倉時代に鴨川の氾濫により南半部が削り取られており、柔らかな砂層が堆積しているのを流路469として確認した。また、室町時代後期には同様な砂層を流路297として検出した。十六町は各時代にわたって頻繁に鴨川の氾濫にさらされていたことが判明した。しかし、検出した各時代の井戸や柱穴群の継続性からも当地の生活が平安時代から現代まで、中断、放棄されることなく綿々と宅地として機能し続けたことも明らかとなった。崇親院に関して言えば、炭層339出土土器群が12世紀中頃に比定でき、また平安時代後期の井戸492に重複する井戸287掘形出土軒瓦が火災により赤変していたことなどから、それらは平治元年の火災による遺構遺物である可能性は高く、文献に記録として残る崇親院の火災を以上の考古資料からその蓋然性を想定することは可能であると考えられる。

註1 『角川日本地名大辞典 26京都府』角川書店 1991年。

『日本歴史地名体系27 京都市の地名』平凡社 1979年。

『平安京提要』角川書店 1994年。

『平安時代史事典』1994年。

註2 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要 第3号』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年。

註3 『木村捷三郎収集瓦図録』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年。

註4 『平安古瓦図録』平安博物館編 1997年。

註5 『類從三代格』貞観二年。

註6 『百鍊抄』平治元年11月26日の条

註7 藤原頼長が仁平元年(1151)に崇親院を巡検している。

註8 辻裕司・丸川義広「尊勝寺跡」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1984年。

註9 拙稿『下鴨城跡-河合神社境内-』古代文化調査会 2015年。

報告書抄録

ふりがな	すうしんいんあと
書名	崇親院跡
副書名	平安京左京六条四坊十六町
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	家崎孝治
編集機関	古代文化調査会
所在地	〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404
発行年月日	2015年12月1日

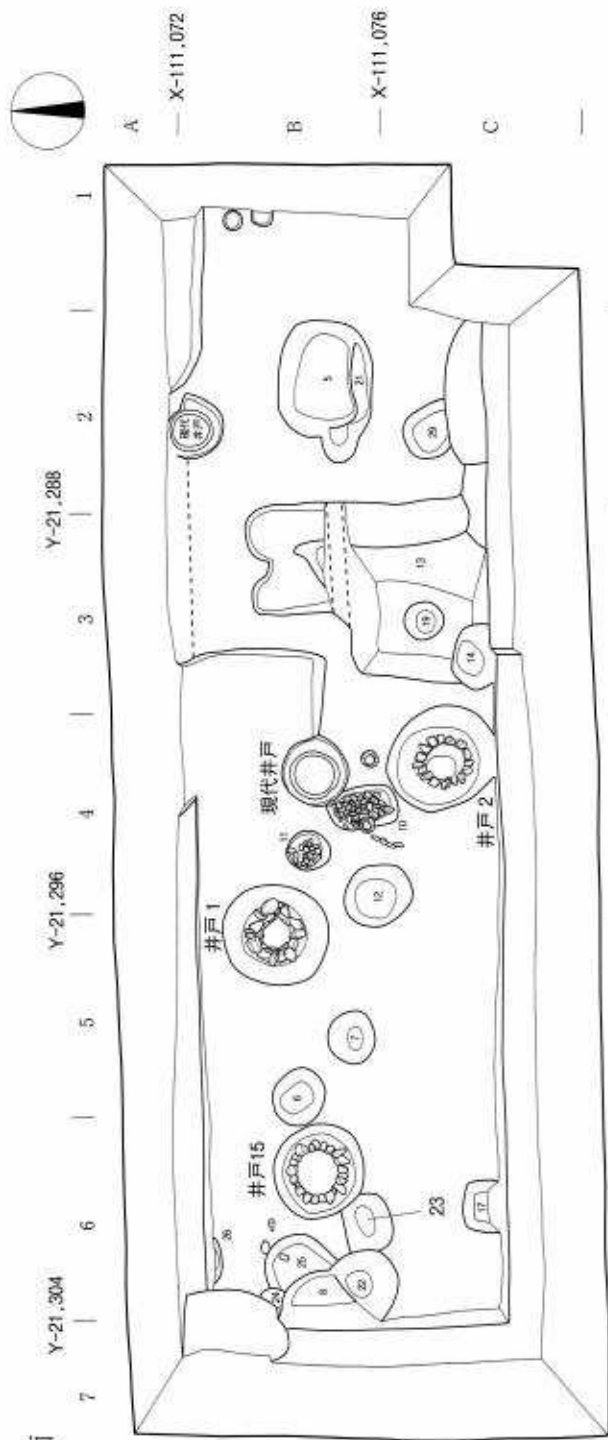
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
すうしんいんあと 崇親院跡・ へいあんきやう 平安京 ひさしやうろくじやう 左京六条 しほうじやうろくじやう 四坊十六町	きやうとししほぎやうく 京都市下京区 てらまちとおけり 寺町通 まつばらぎ 松原下ル うらまつちやう 植松町	26100	1	34度 59分 54秒	135度 46分 00秒	2015.01.26 ～ 2015.03.27	232.5㎡	マンション建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
崇親院跡・ 平安京左京 六条四坊 十六町	邸宅跡 ・ 都城跡	平安時代 ～ 室町時代	井戸、溝、土塋、掘立柱 建物	土師器、須恵器、瓦器、 国産陶磁器、輸入陶磁 器、瓦類、石製品、土 製品、ガラス製品、銭 貨	宅地を区画す る跡跡・ 東京極大路西 側溝

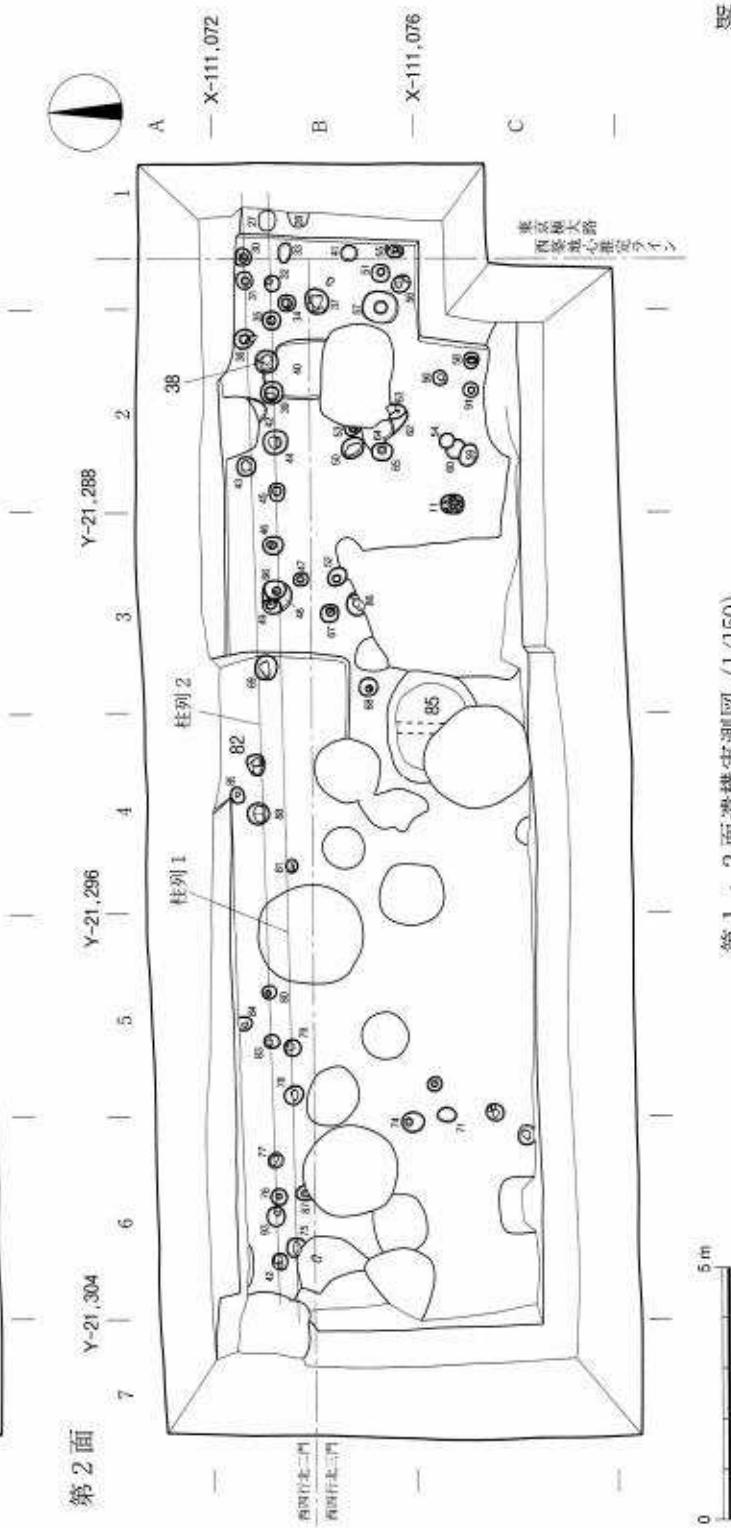
	Aランク点数 (箱数)	内 訳	Bランク (箱数)	Cランク (箱数)	出土箱数 合計
点数及び箱数	176点 (7箱)	土師器118点、須恵器6点、灰釉陶器 2点、瓦器15点、青磁2点、白磁10点、 焼締2点、軒瓦20点、石製品2点、土 製品3点、金属製品2点、ガラス製品 1点、銭貨3点	76箱	0	83箱

図 版

第1面



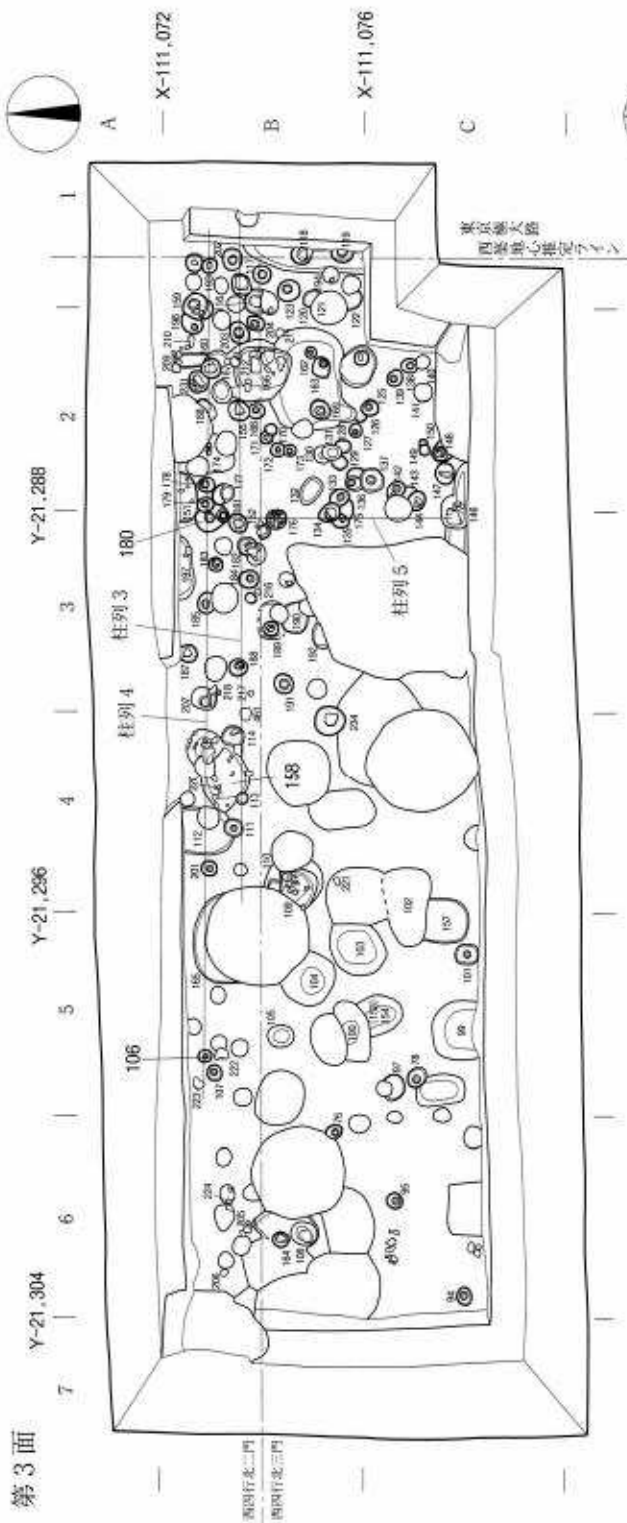
第2面



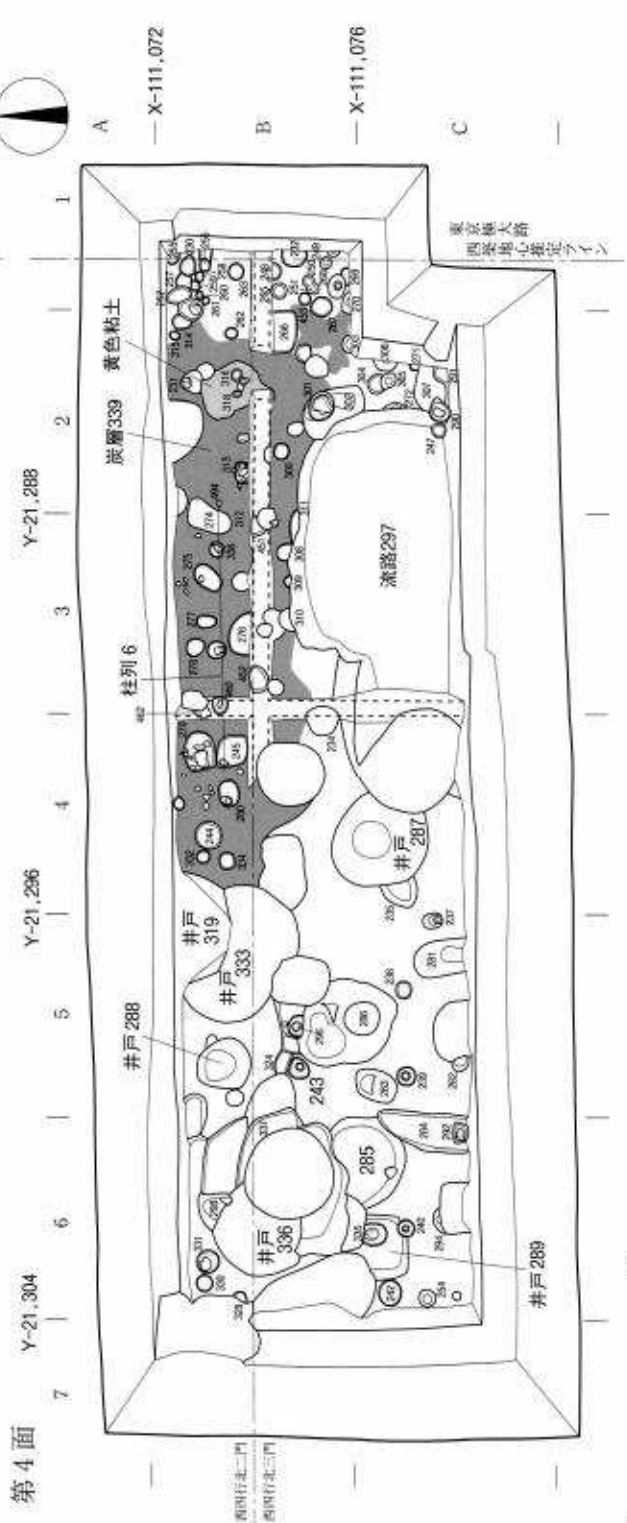
第1・2面遺構実測図 (1/150)

0 5m

第3面

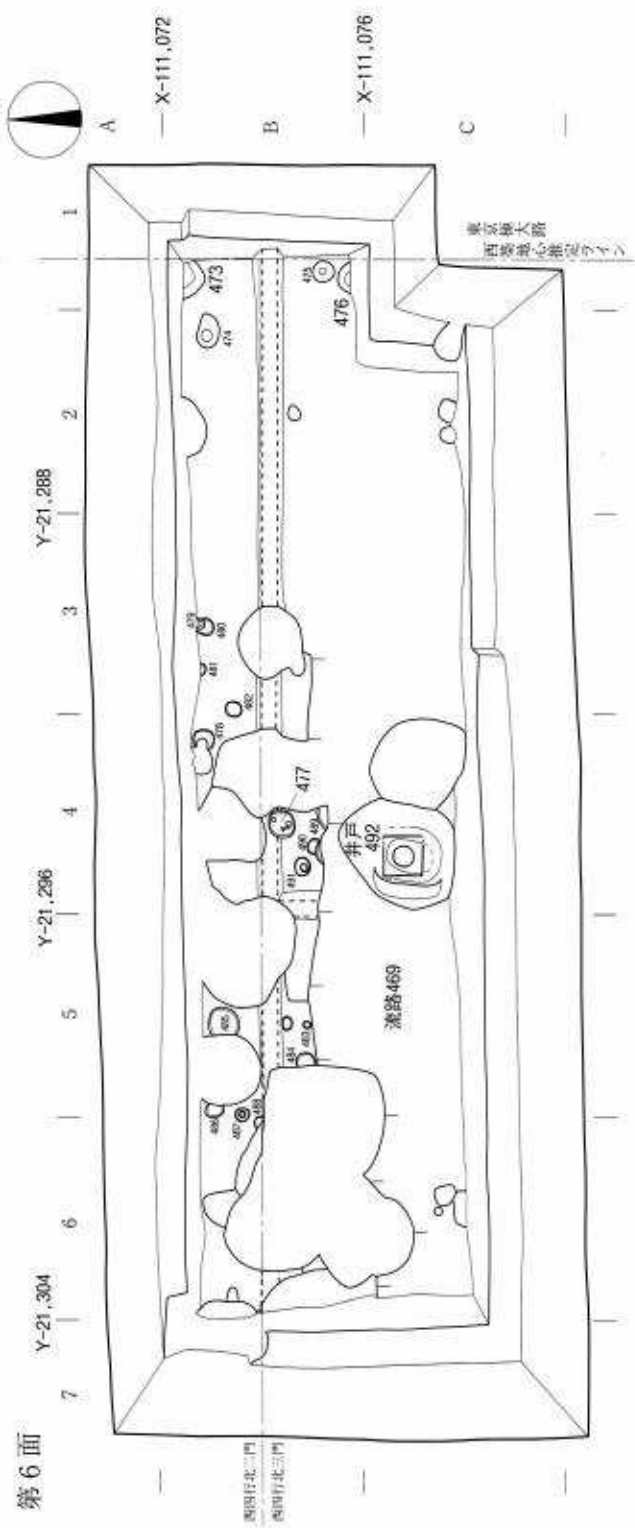
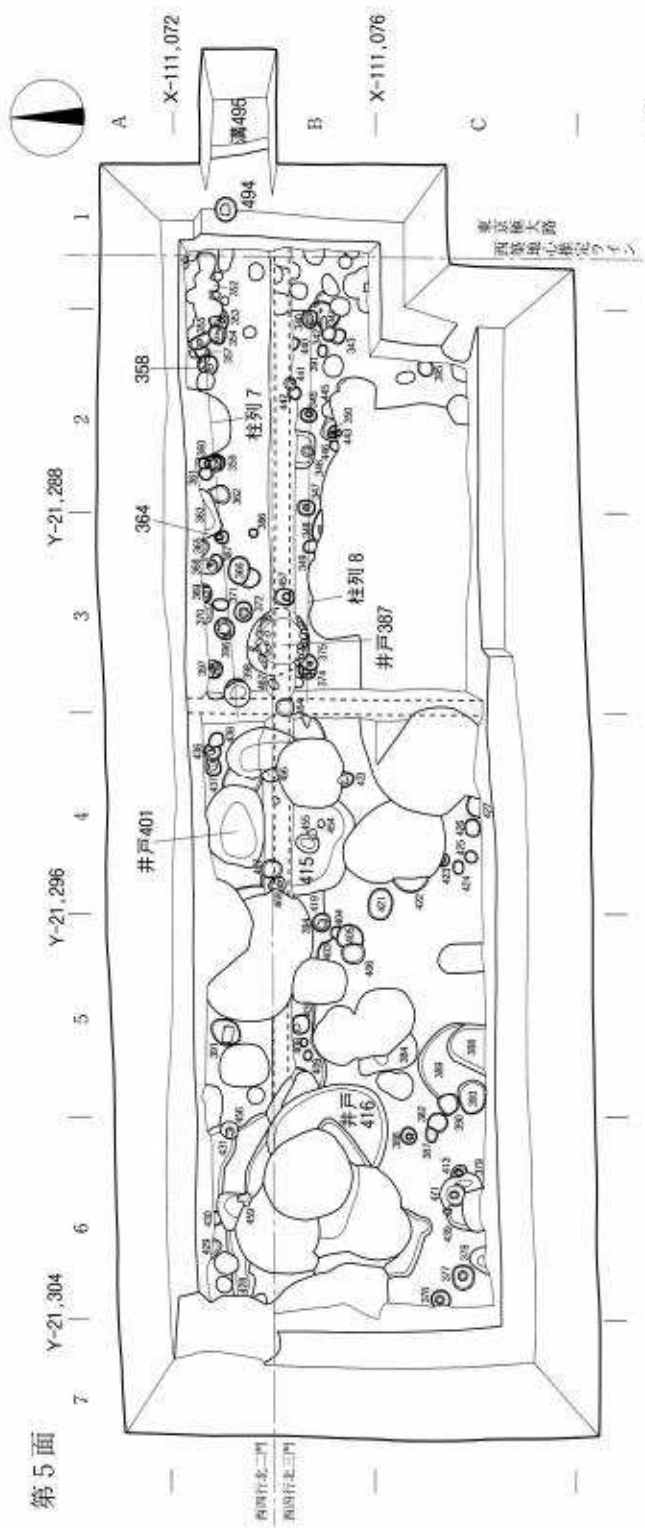


第4面

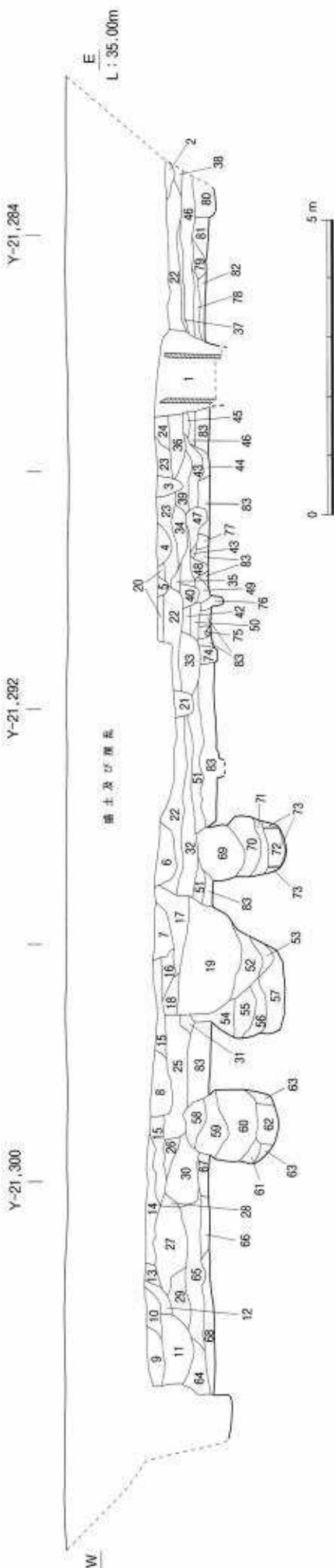


0 5 m

第3・4面遺構実測図 (1/150)

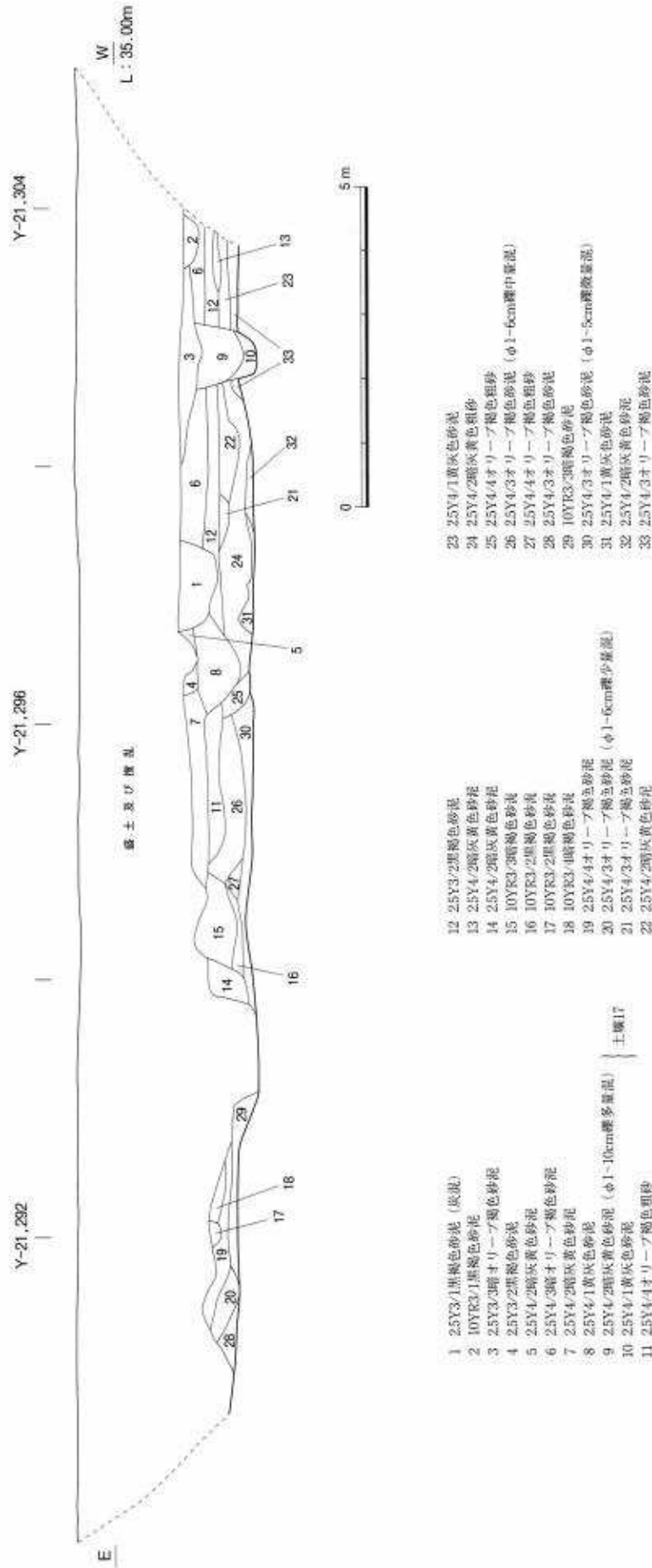


第5・6面遺構実測図 (1/150)



- | | | | |
|---|---|--|--|
| <p>1 10YR3/2黒褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>2 10YR3/3暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>3 10YR2/2黒褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>4 10YR3/2暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>5 10YR3/4暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>6 10YR3/2暗褐色砂泥 (φ1-2cm) 少量泥</p> <p>7 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>8 10YR3/3暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>9 25Y3/1黒褐色砂泥 (φ1-4cm) 少量泥</p> <p>10 10YR4/2灰黄褐色砂泥 (φ1-3cm) 少量泥</p> <p>11 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-12cm) 少量泥</p> <p>12 25Y4/2暗褐色砂泥 (φ1-20cm) 少量泥</p> <p>13 25Y3/2暗褐色砂泥 (10YR5/4) に多い黄褐色粘土ブロック泥</p> <p>14 10YR4/2暗褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>15 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-4cm) 少量泥</p> <p>16 25Y3/1黒褐色砂泥 (φ1-5cm) 少量泥</p> <p>17 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-5cm) 少量泥</p> <p>18 25Y4/2暗褐色砂泥 (φ1-5cm) 少量泥</p> <p>19 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>20 10YR3/2暗褐色砂泥 (φ1-3cm) 少量泥</p> <p>21 10YR3/2暗褐色砂泥 (φ1-3cm) 少量泥</p> | <p>22 10YR2/2暗褐色砂泥 (φ1-15cm) 少量泥</p> <p>23 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-3cm) 少量泥</p> <p>24 10YR3/3暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>25 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>26 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-2cm) 少量泥</p> <p>27 25Y3/1黒褐色砂泥 (φ1-5cm) 少量泥</p> <p>28 25Y3/2暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>29 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-3cm) 少量泥</p> <p>30 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-13cm) 少量泥</p> <p>31 25Y4/4オリーブ褐色砂泥</p> <p>32 10YR3/1暗褐色砂泥 (φ1-7cm) 少量泥</p> <p>33 10YR2/2暗褐色砂泥 (φ1-13cm) 少量泥</p> <p>34 10YR3/3暗褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>35 10YR3/2暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>36 10YR4/2灰黄褐色砂泥 (φ1-15cm) 少量泥</p> <p>37 25Y3/1黒褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>38 10YR3/2暗褐色砂泥</p> <p>39 10YR2/2暗褐色砂泥 (φ1-15cm) 少量泥</p> <p>40 10YR3/1暗褐色砂泥 (φ1-3cm) 少量泥</p> <p>41 10YR2/2暗褐色砂泥 (10YR4/4褐色粘土ブロック) に少量泥</p> <p>42 10YR2/2暗褐色砂泥 (炭泥)</p> | <p>43 10YR3/2暗褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>44 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-15cm) 少量泥</p> <p>45 10YR3/3暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>46 25Y4/4オリーブ褐色砂泥</p> <p>47 25Y3/2暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>48 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ5cm) 少量泥</p> <p>49 25Y3/3暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>50 10YR2/1黒褐色砂泥 (φ1-5cm) 少量泥</p> <p>51 25Y4/1灰褐色砂泥</p> <p>52 25Y4/2暗褐色砂泥 (φ1-5cm) 少量泥</p> <p>53 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-20cm) 少量泥</p> <p>54 25Y4/1暗褐色砂泥</p> <p>55 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ3-20cm) 少量泥</p> <p>56 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (φ1-20cm) 少量泥</p> <p>57 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ5-30cm) 少量泥</p> <p>58 10YR3/2暗褐色砂泥 (φ1-12cm) 少量泥</p> <p>59 25Y3/3暗褐色砂泥 (φ1-7cm) 少量泥</p> <p>60 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>61 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>62 25Y3/3暗褐色砂泥 (φ1-5cm) 少量泥</p> <p>63 25Y4/2暗褐色砂泥 (φ1-3cm) 少量泥</p> | <p>64 25Y4/1暗褐色砂泥 (φ3-5cm) 少量泥</p> <p>65 25Y4/2暗褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>66 25Y3/2暗褐色砂泥</p> <p>67 25Y3/2暗褐色砂泥</p> <p>68 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>69 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (φ1-5cm) 少量泥</p> <p>70 25Y3/2暗褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>71 25Y4/2暗褐色砂泥</p> <p>72 25Y3/1暗褐色砂泥 (φ3-10cm) 少量泥</p> <p>73 25Y4/2暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>74 25Y3/2暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>75 25Y3/2暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>76 25Y3/2暗褐色砂泥 (炭泥)</p> <p>77 25Y4/2暗褐色砂泥</p> <p>78 25Y4/2暗褐色砂泥</p> <p>79 25Y4/4オリーブ褐色砂泥</p> <p>80 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (炭泥) (土塊473)</p> <p>81 25Y3/3暗褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>82 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (φ1-10cm) 少量泥</p> <p>83 25Y4/4オリーブ褐色砂泥 (炭泥)</p> |
|---|---|--|--|

北壁断面実測図 (1/100)

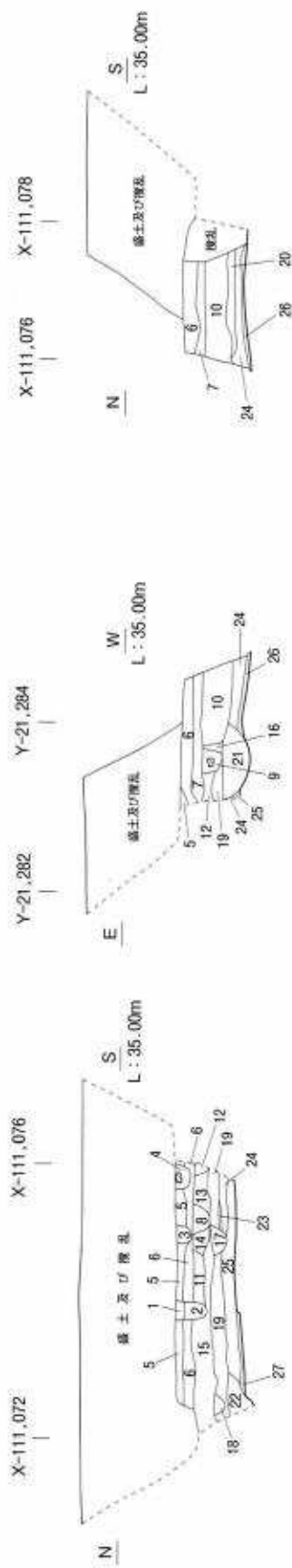


南壁断面実測図 (1/100)

東壁

南東部南壁

南東部東壁

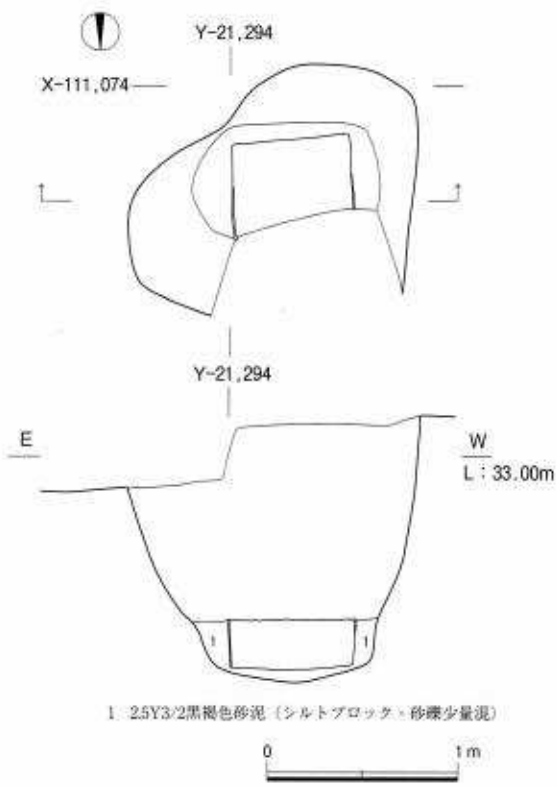


- 1 10YR3/2暗褐色砂泥
- 2 10YR3/3暗褐色砂泥
- 3 10YR3/2暗褐色砂泥
- 4 10YR3/2暗褐色砂泥
- 5 10YR3/3暗褐色砂泥 (灰泥)
- 6 10YR3/4暗褐色砂泥 (φ1-10cm礫少量混)
- 7 10YR3/3暗褐色砂泥
- 8 10YR3/2暗褐色砂泥
- 9 10YR2/3暗褐色砂泥

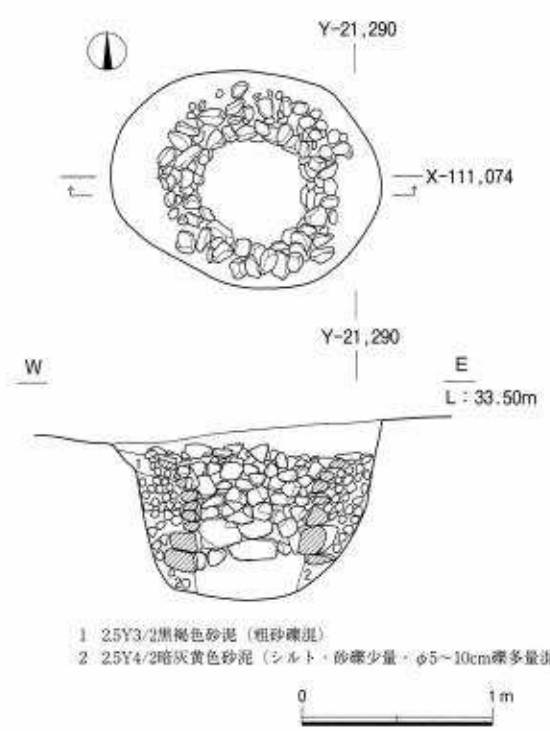
- 10 10YR3/4暗褐色砂泥
- 11 10YR3/2暗褐色砂泥
- 12 25Y3/2暗褐色砂泥
- 13 10YR3/3暗褐色砂泥
- 14 10YR3/3暗褐色砂泥
- 15 10YR3/2暗褐色砂泥 (φ1-5cm礫少量、灰少量混)
- 16 25Y4/4オリーブ褐色砂泥
- 17 10YR3/2暗褐色砂泥
- 18 10YR3/2暗褐色砂泥

- 19 25Y4/4オリーブ褐色砂泥
- 20 10YR3/2暗褐色砂泥
- 21 10YR3/3暗褐色砂泥 (土塊混)
- 22 10YR3/3暗褐色砂泥
- 23 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 24 25Y4/3オリーブ褐色砂泥
- 25 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (φ1-10cm礫少量混)
- 26 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (φ1-10cm礫少量混)
- 27 25Y4/4オリーブ褐色砂泥

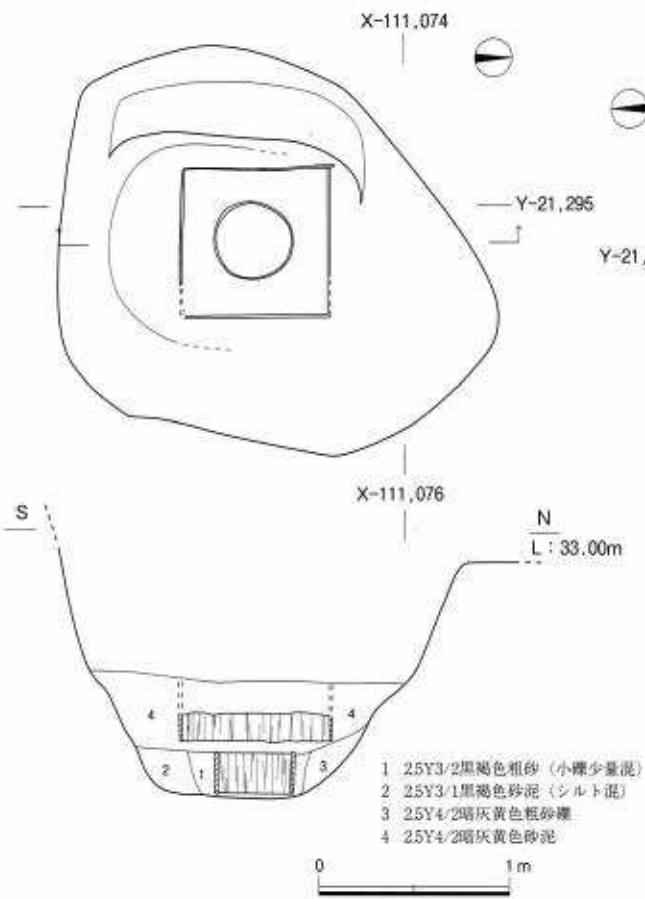
東壁・南東部南壁・南東部東壁断面実測図 (1/100)



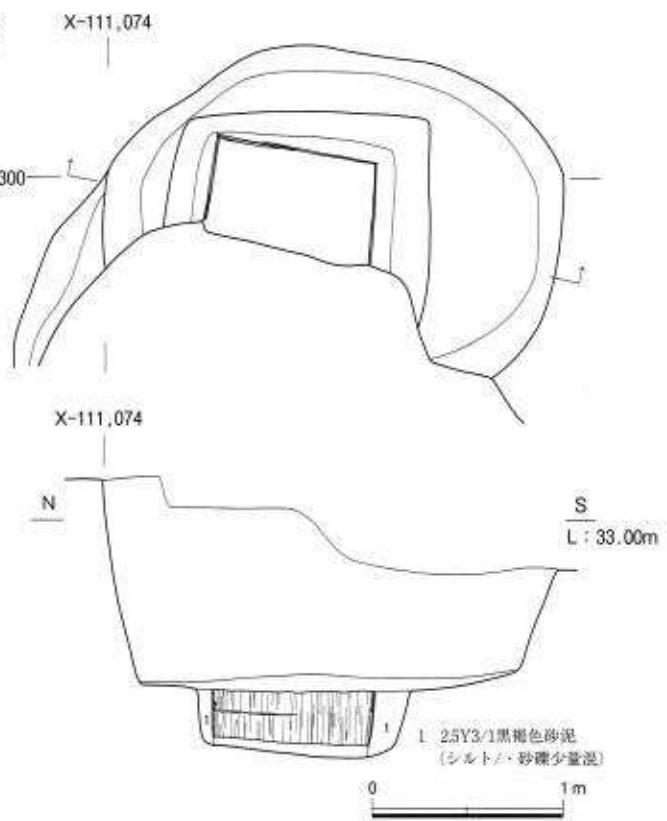
井戸401実測図 (1/40)



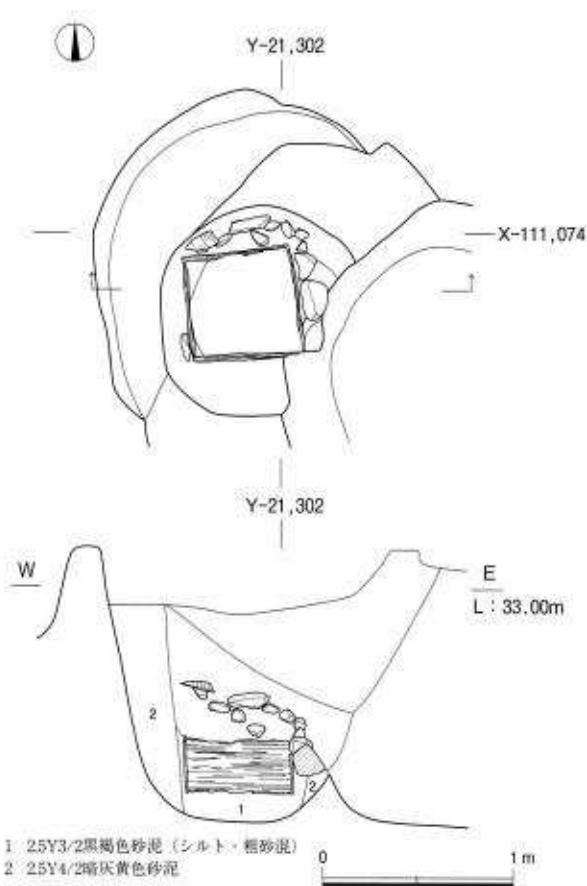
井戸387実測図 (1/40)



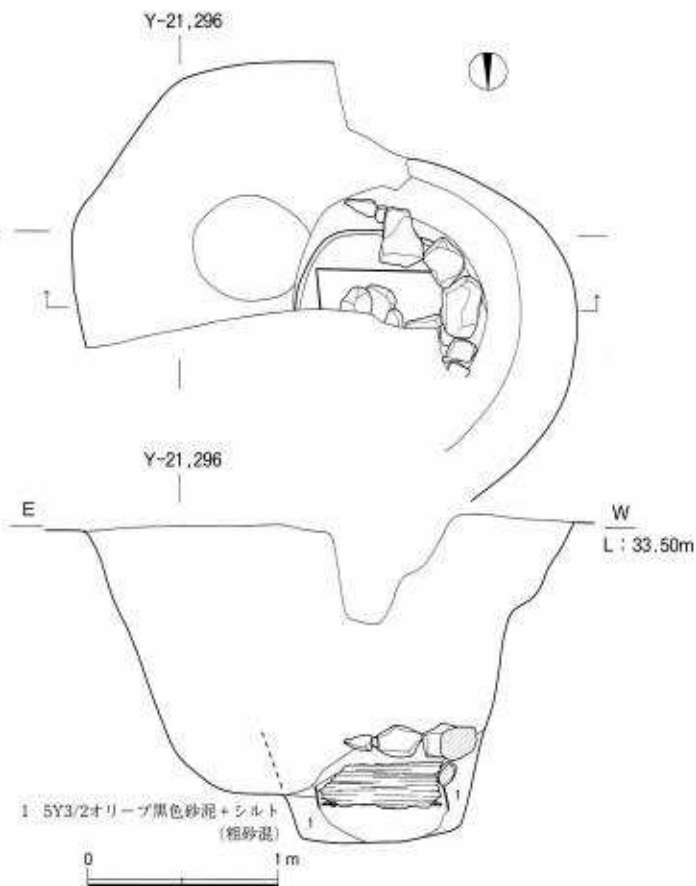
井戸492実測図 (1/40)



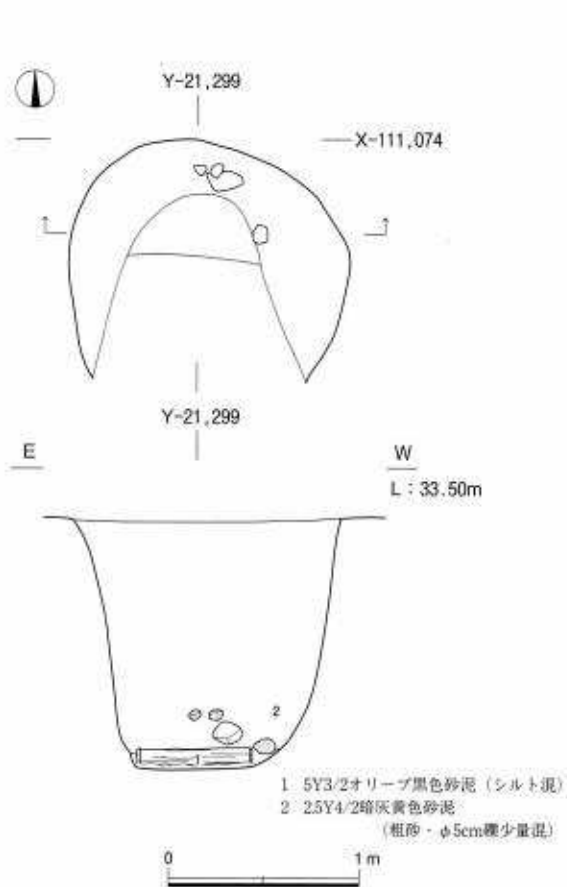
井戸416実測図 (1/40)



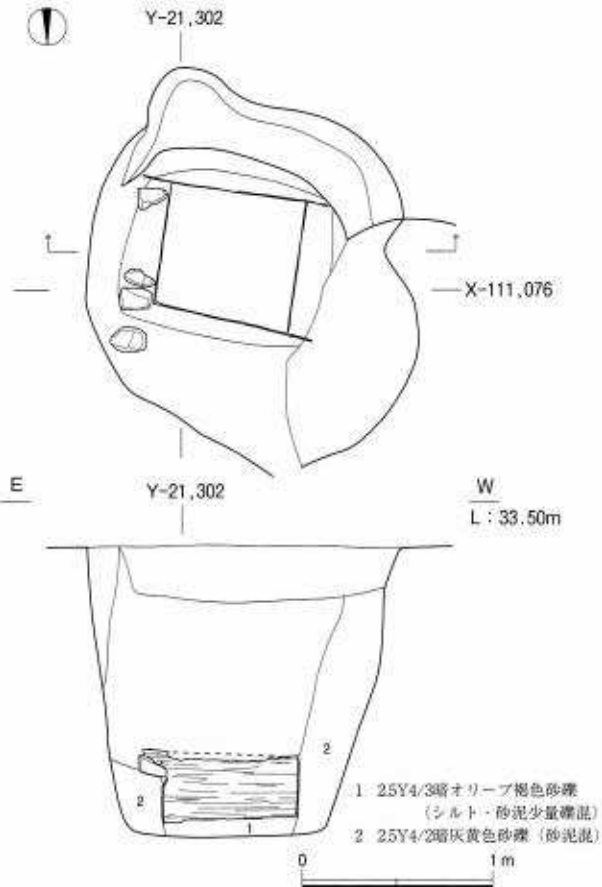
井戸336実測図 (1/40)



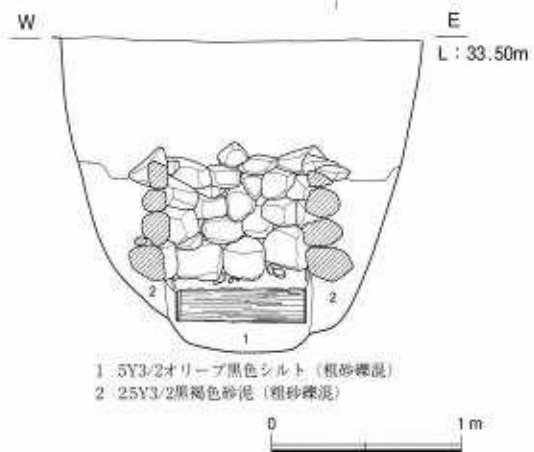
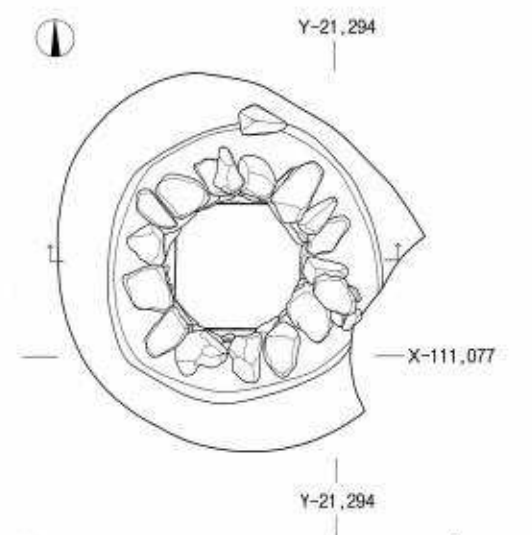
井戸333実測図 (1/40)



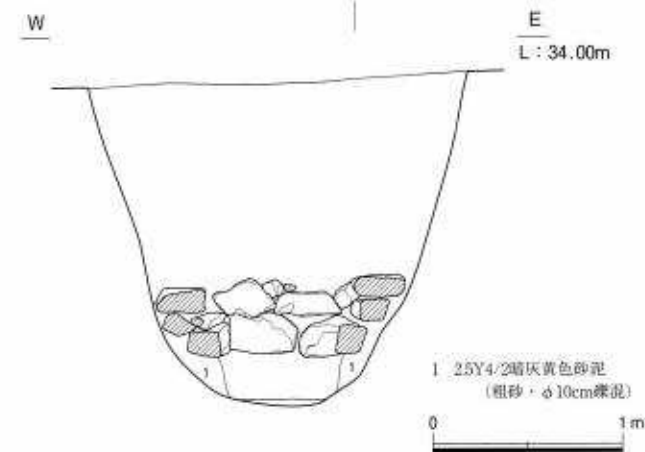
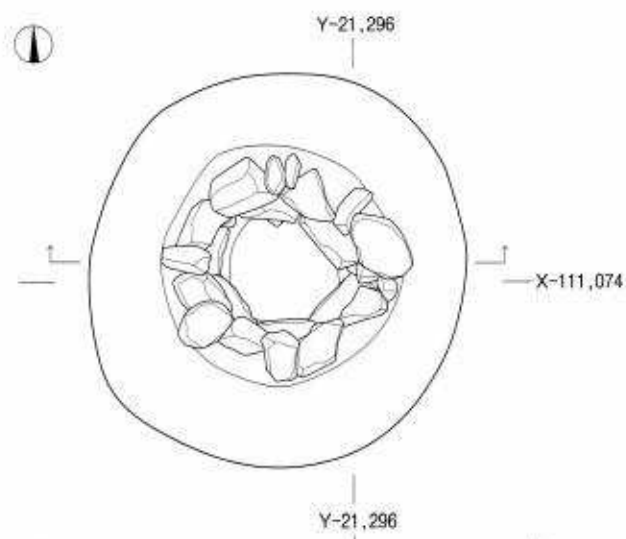
井戸288実測図 (1/40)



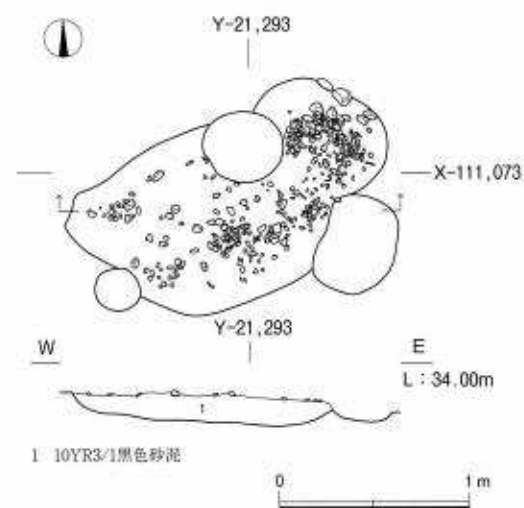
井戸289実測図 (1/40)



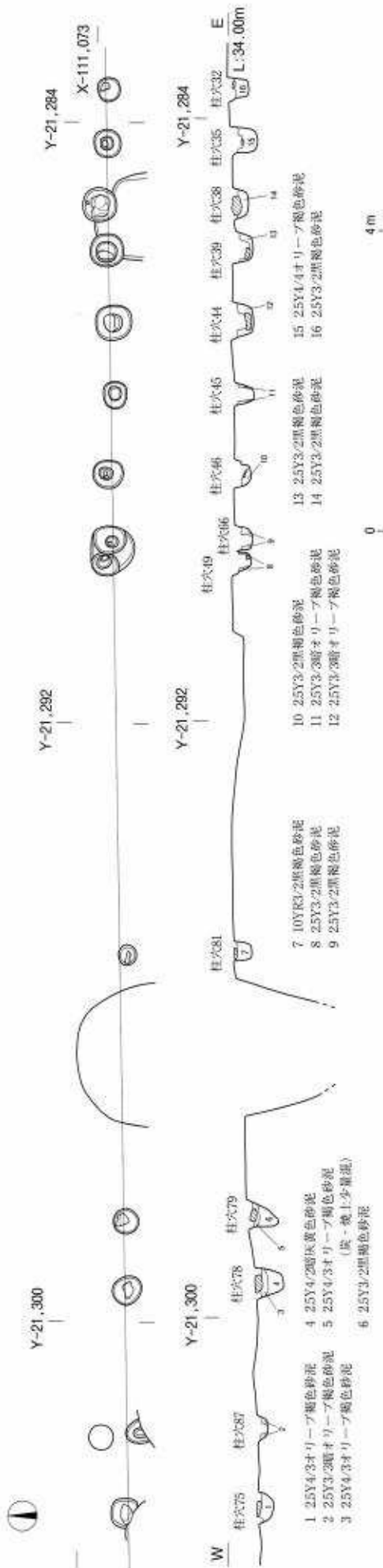
井戸287実測図 (1/40)



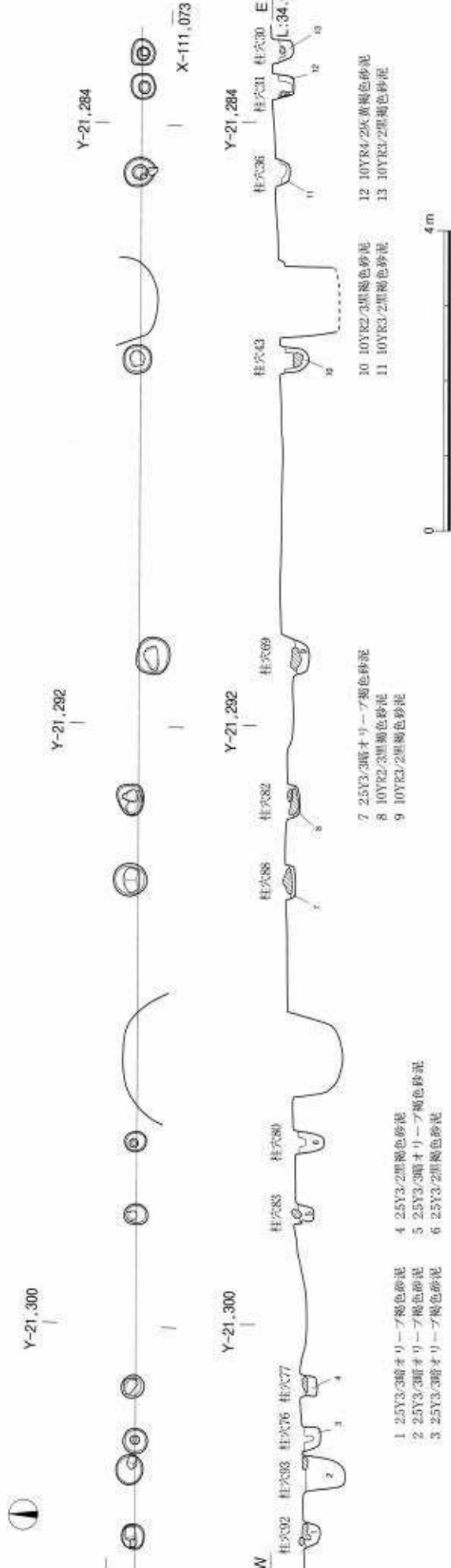
井戸1実測図 (1/40)



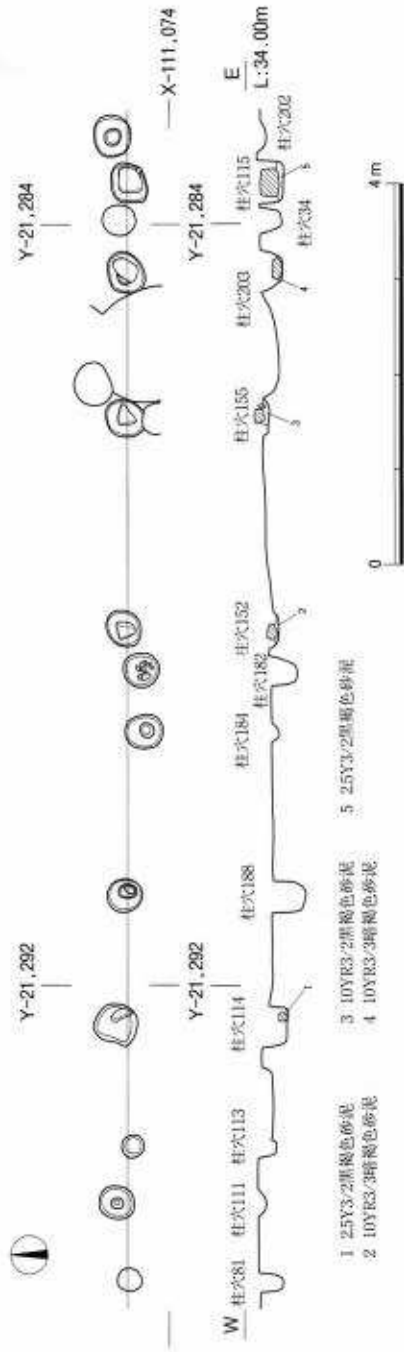
土坑158実測図 (1/40)



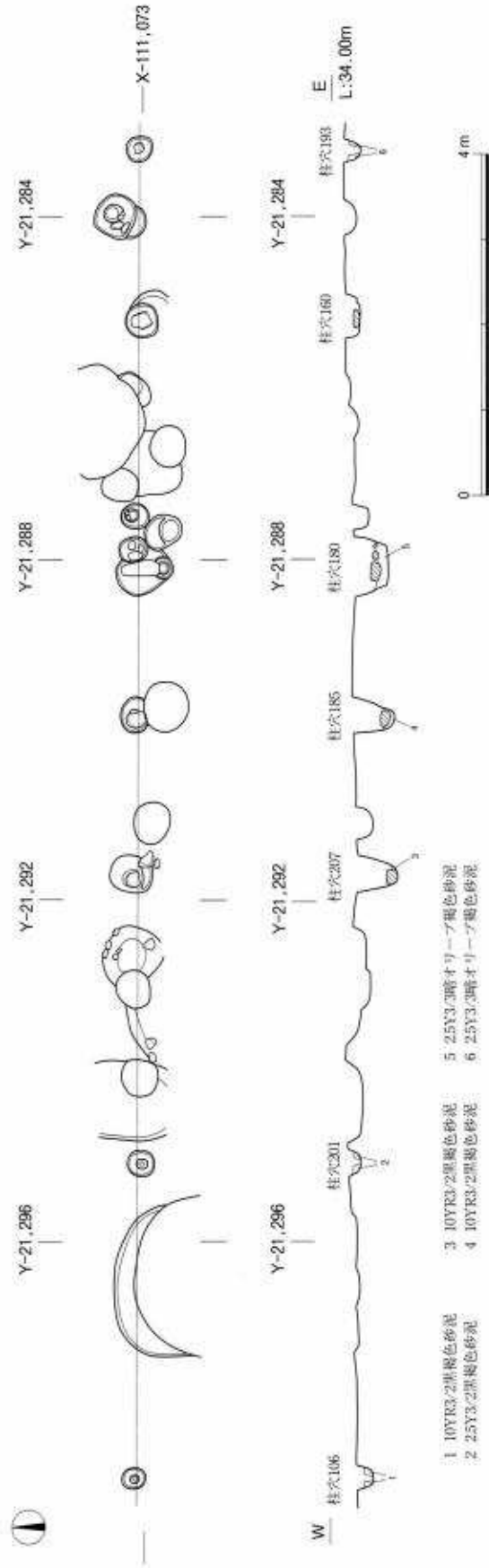
柱列 1 実測図 (1/80)



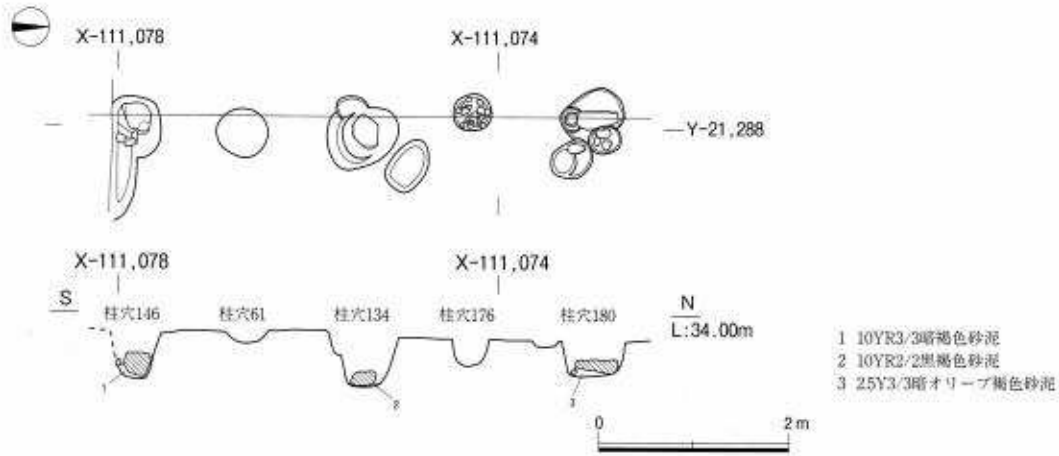
柱列 2 実測図 (1/80)



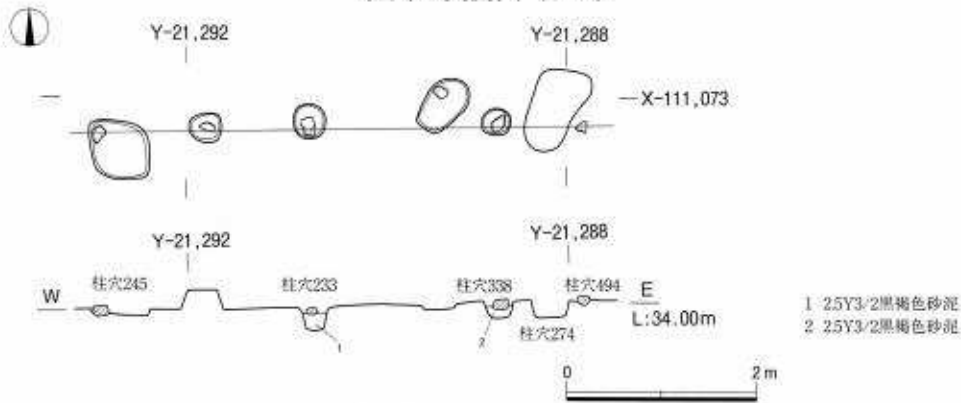
柱列 3 实测图 (1/80)



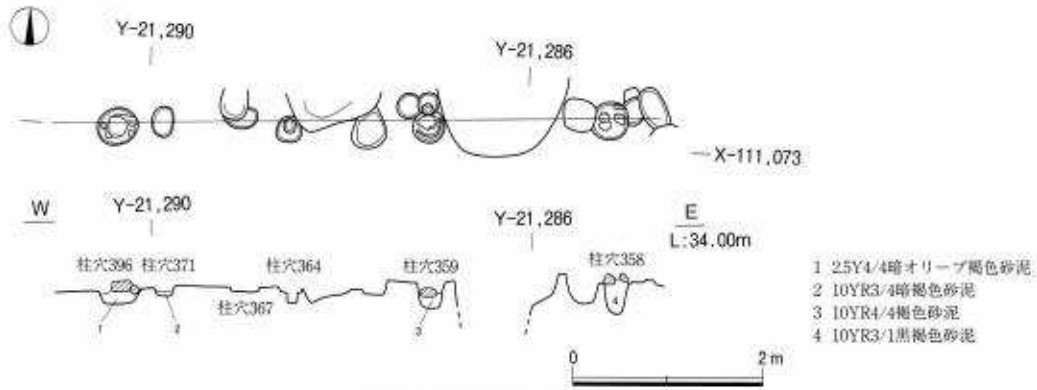
柱列 4 实测图 (1/80)



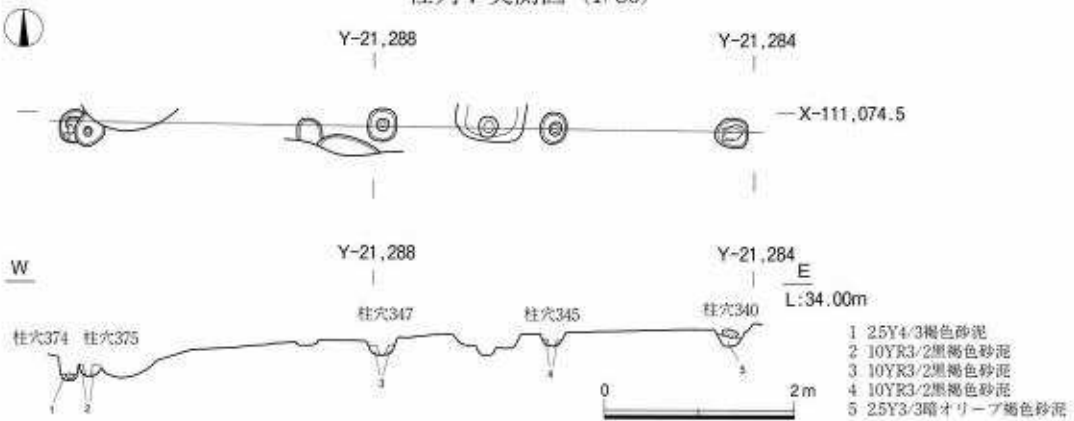
柱列5 実測図 (1/80)



柱列6 実測図 (1/80)



柱列7 実測図 (1/80)



柱列8 実測図 (1/80)



1 調査地遠景（東から）



2 第1面全景（東から）



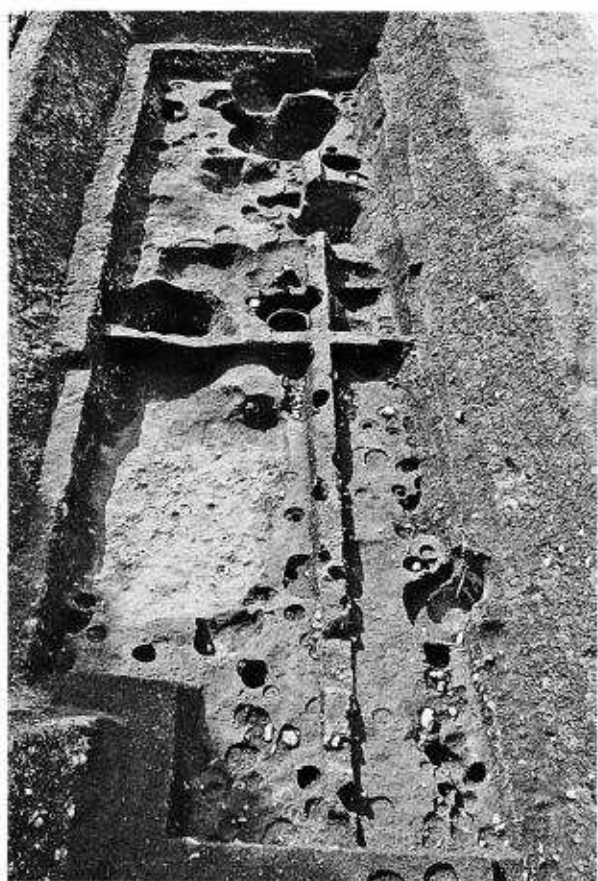
3 第2面全景（東から）



1 第3面全景 (東から)



2 第4面全景 (東から)



3 第5面全景 (東から)



4 第6面全景 (東から)



1 井戸287 (南から)



2 井戸289 (北から)



1 井戸288 (北から)



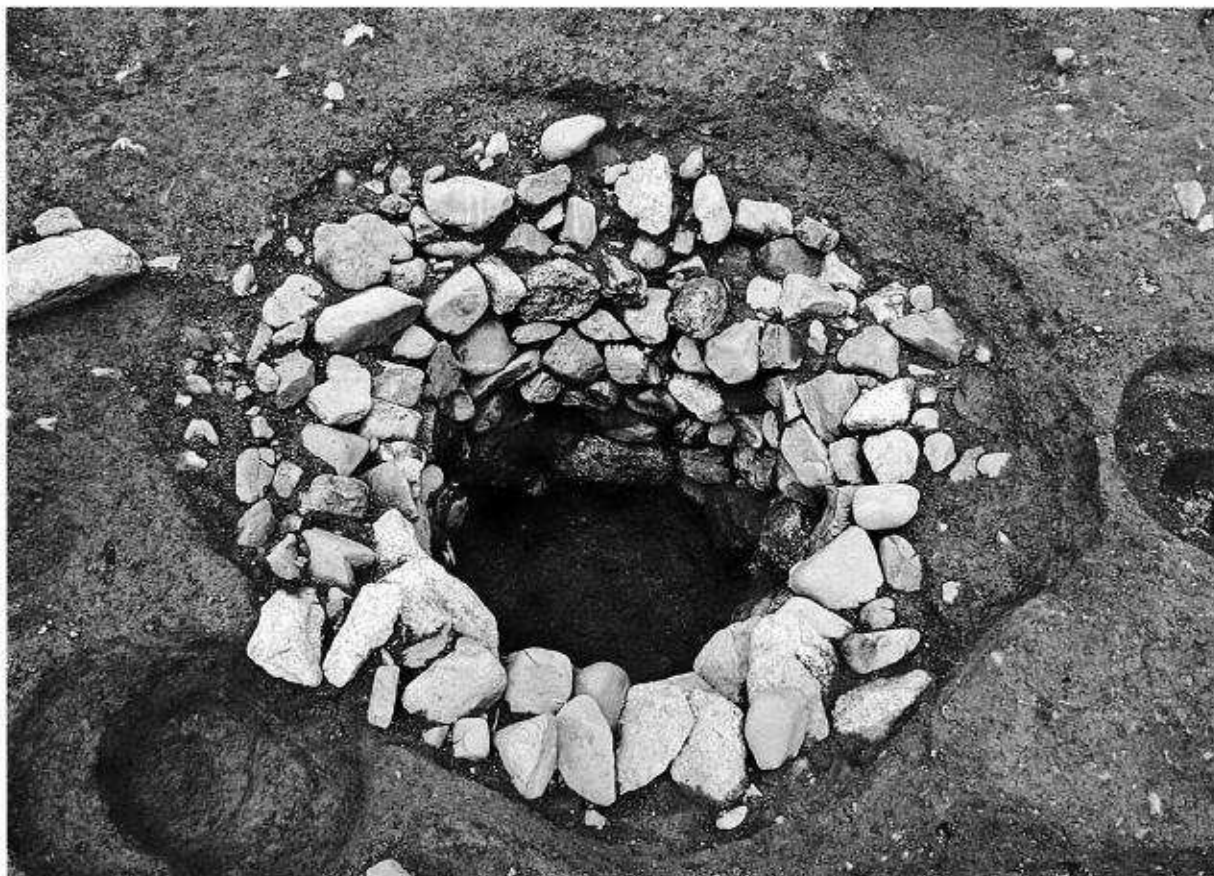
2 井戸336 (南東から)



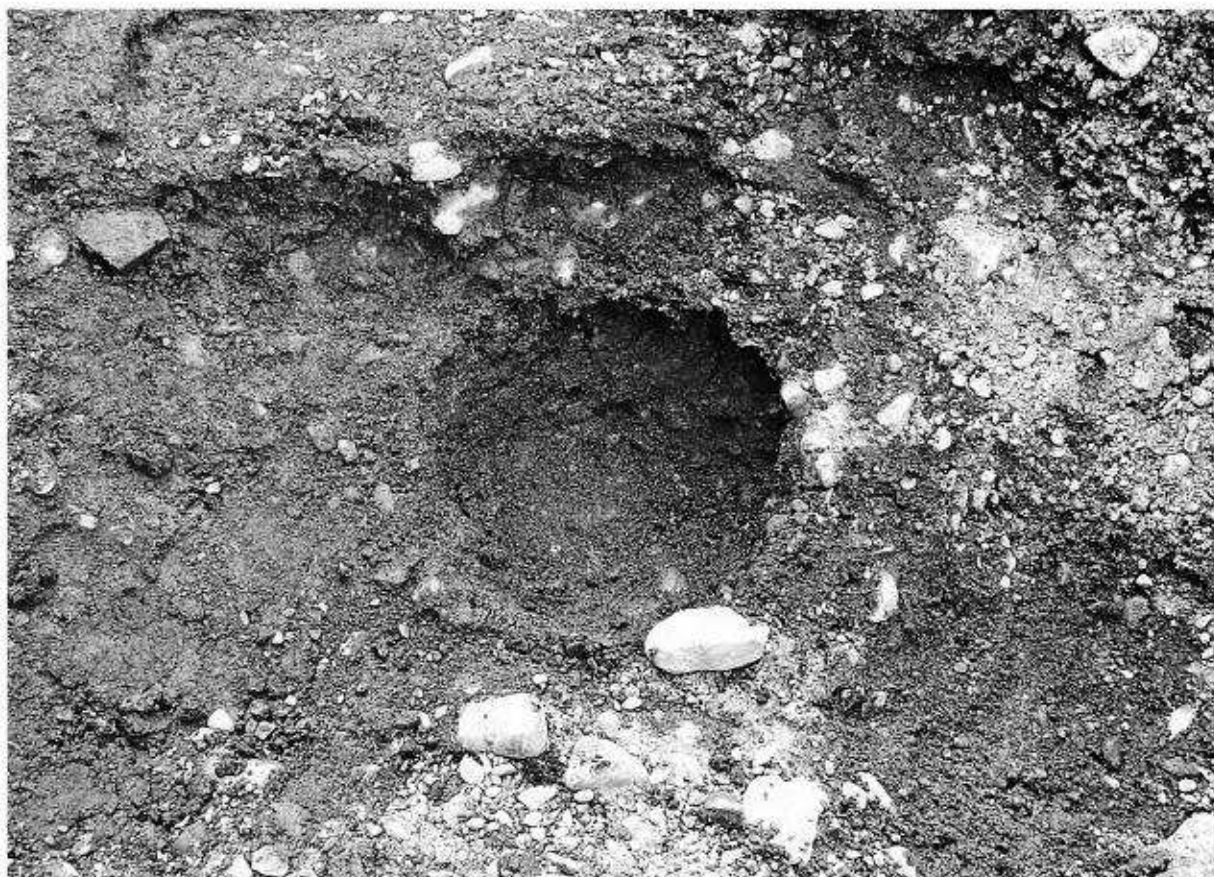
1 井戸416 (西から)



2 井戸401 (北から)



1 井戸387 (南から)



2 井戸492 (東から)



6



10



62



29



65



64



26



94



96



104



122



115

土壙473 (6)・土壙477 (10)・柱穴346 (62)・井戸387 (29)・土壙337 (64・65)・井戸401 (26)・井戸288 (94・96)・井戸289 (104)・井戸287 (115・117・122) 出土遺物



53



49



66



134



135



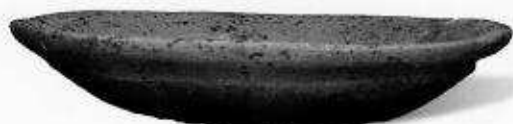
137



138



139



143



144



146



169

170



168



171



173

炭層339 (49・53) 柱穴313 (66)・土壙158 (134・135・137~139・143・144・146)・井戸387 (168・170)・3 B 整地層 3 (169)・土壙266 (171)・土壙417 (173) 出土遺物



6



10



62



29



65



64



26



94



96



104



122



115

土壙473 (6)・土壙477 (10)・柱穴346 (62)・井戸387 (29)・土壙337 (64・65)・井戸401 (26)・井戸288 (94・96)・井戸289 (104)・井戸287 (115・117・122) 出土遺物



53



49



66



134



135



137



138



139



143



144



146



169

170



168



171



173

炭層339 (49・53) 柱穴313 (66)・土壙158 (134・135・137~139・143・144・146)・井戸387 (168・170)・3 B 整地層 3 (169)・土壙266 (171)・土壙417 (173) 出土遺物



148



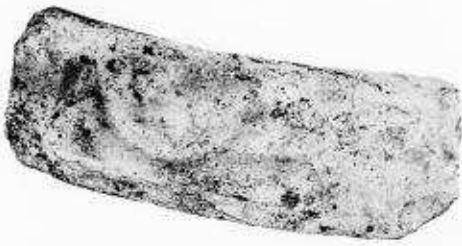
149



150



151



152



153



154



155

井戸287 (148~155) 出土軒瓦



156



158



157



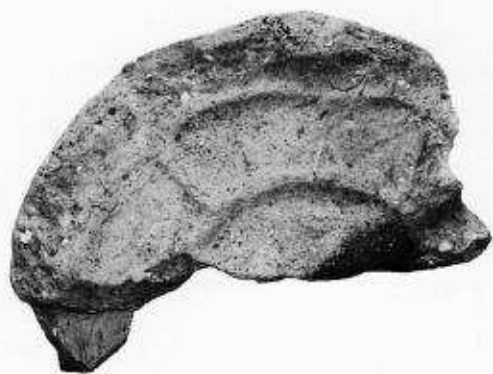
159



160



161



162



163

井戸287 (156~158) · 炭層339 (159~161) · 柱穴397 (162) · 土城415 (163) 出土軒瓦



164



165



166



167

崇親院跡

—平安京左京六条四坊十六町—

発行日 2015年12月1日
編集発行 古代文化調査会
住所 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404
TEL (078)857-6368
印刷 真陽社
〒600-8475 京都市下京区油小路仏光寺上ル
TEL (075)351-6034